

# Dedicated to you

collection of short stories

KIBANA × YURI

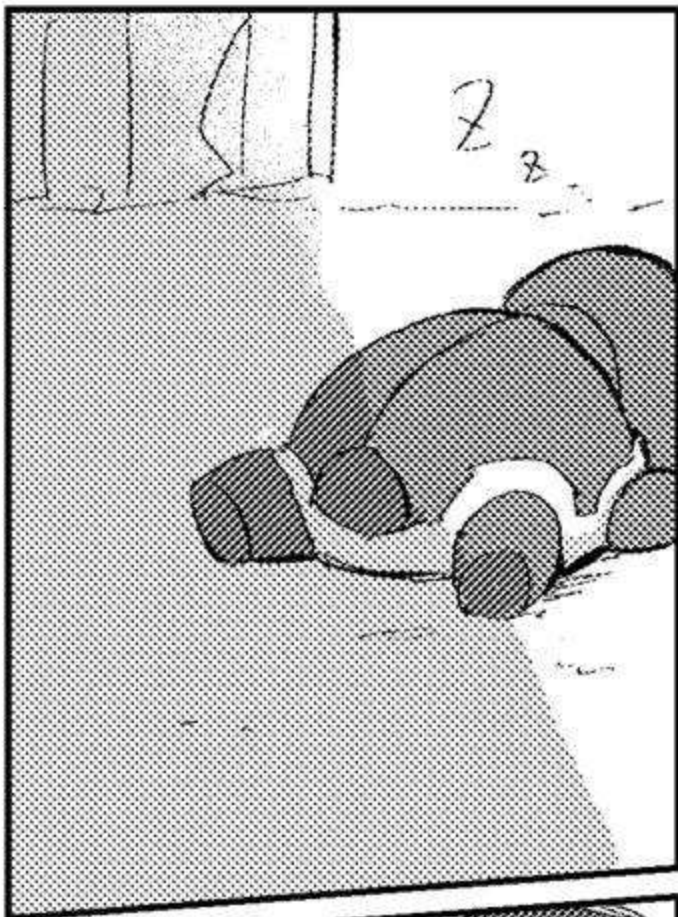


R18

ADULT  
ONLY

陽だまりの匂い

わあ…

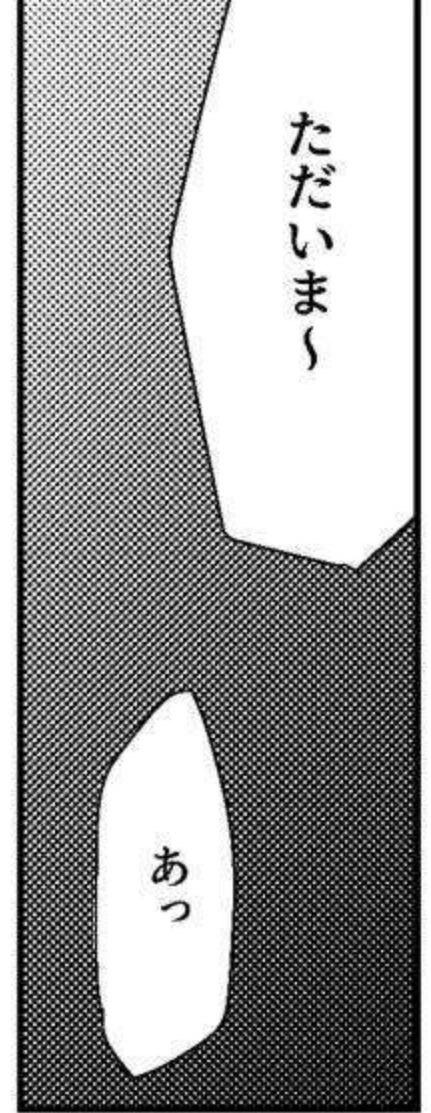


やっぱり  
大きいなあ…

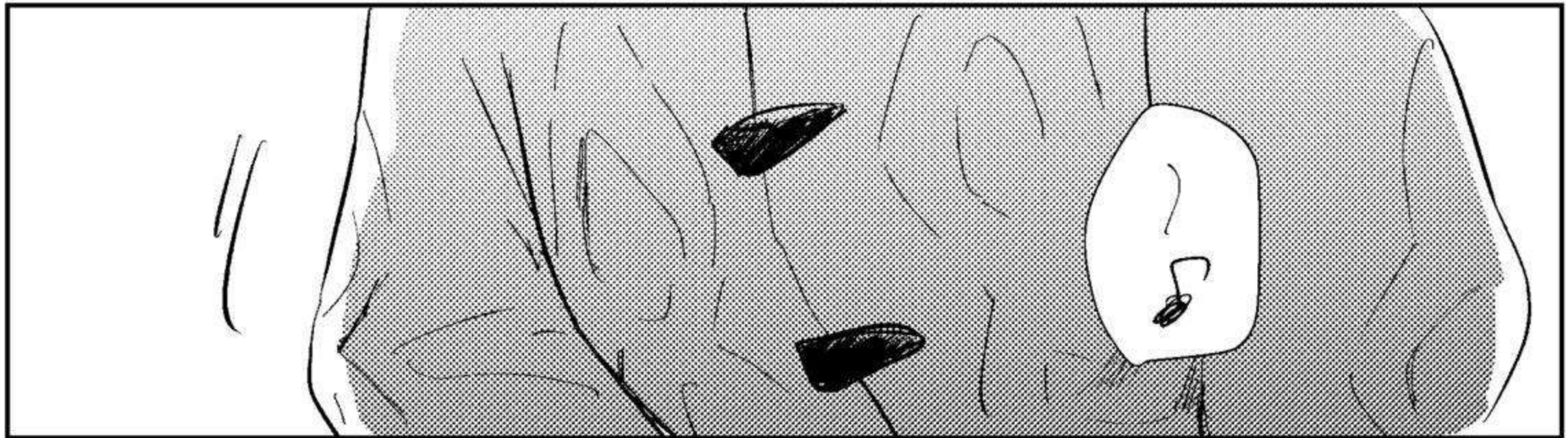


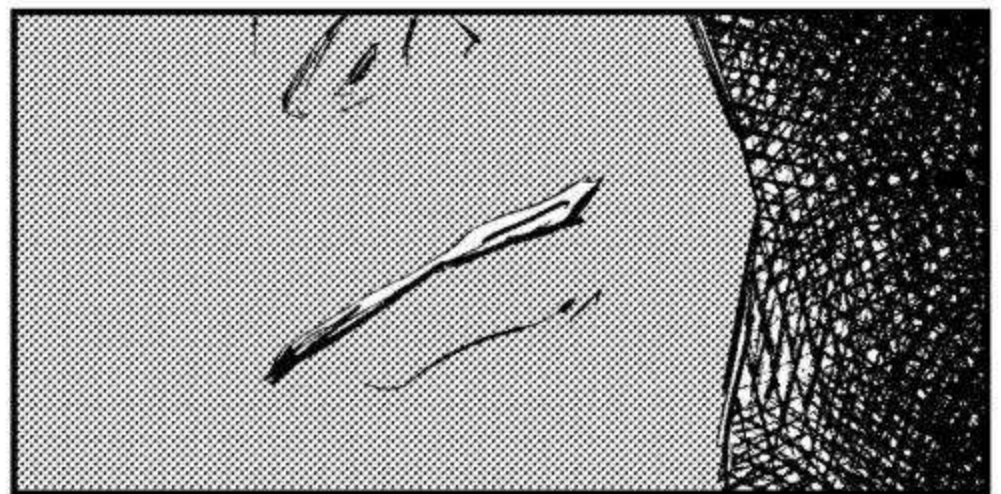






悪戯  
な君

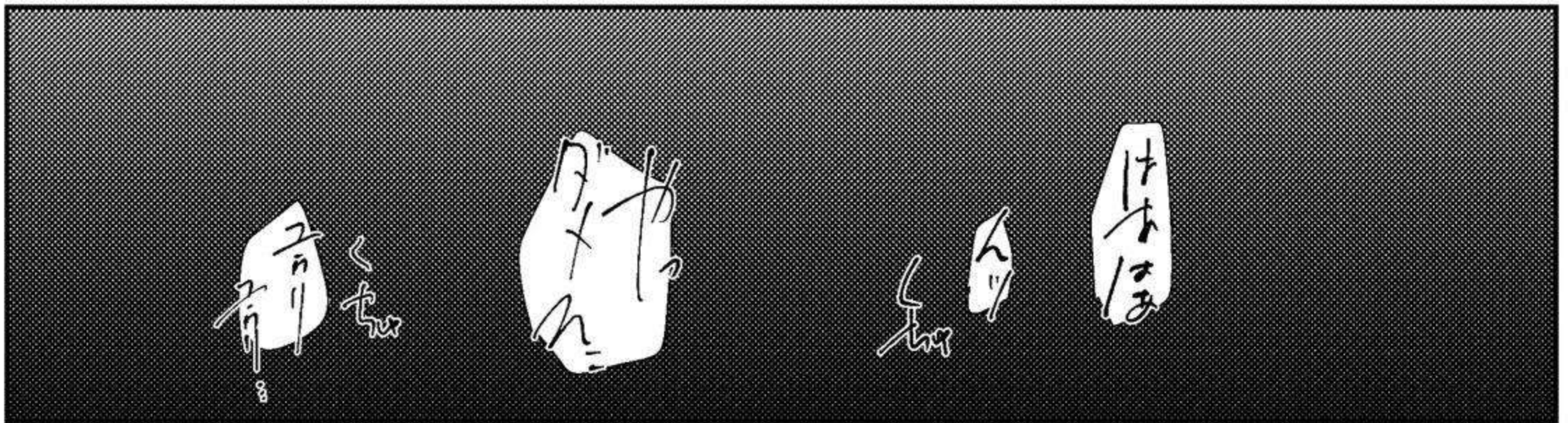




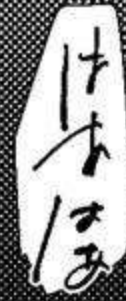


かわいい  
大きなドラゴンさん

寝顔だけ見ると  
子供みたい…



くちゅ



なあ…



そろそろ…  
いいか?



ほん  
ほっぺ触られた  
時からかな

いつから  
起きてました…?



お目覚めの  
キスしてくれると  
思ってた



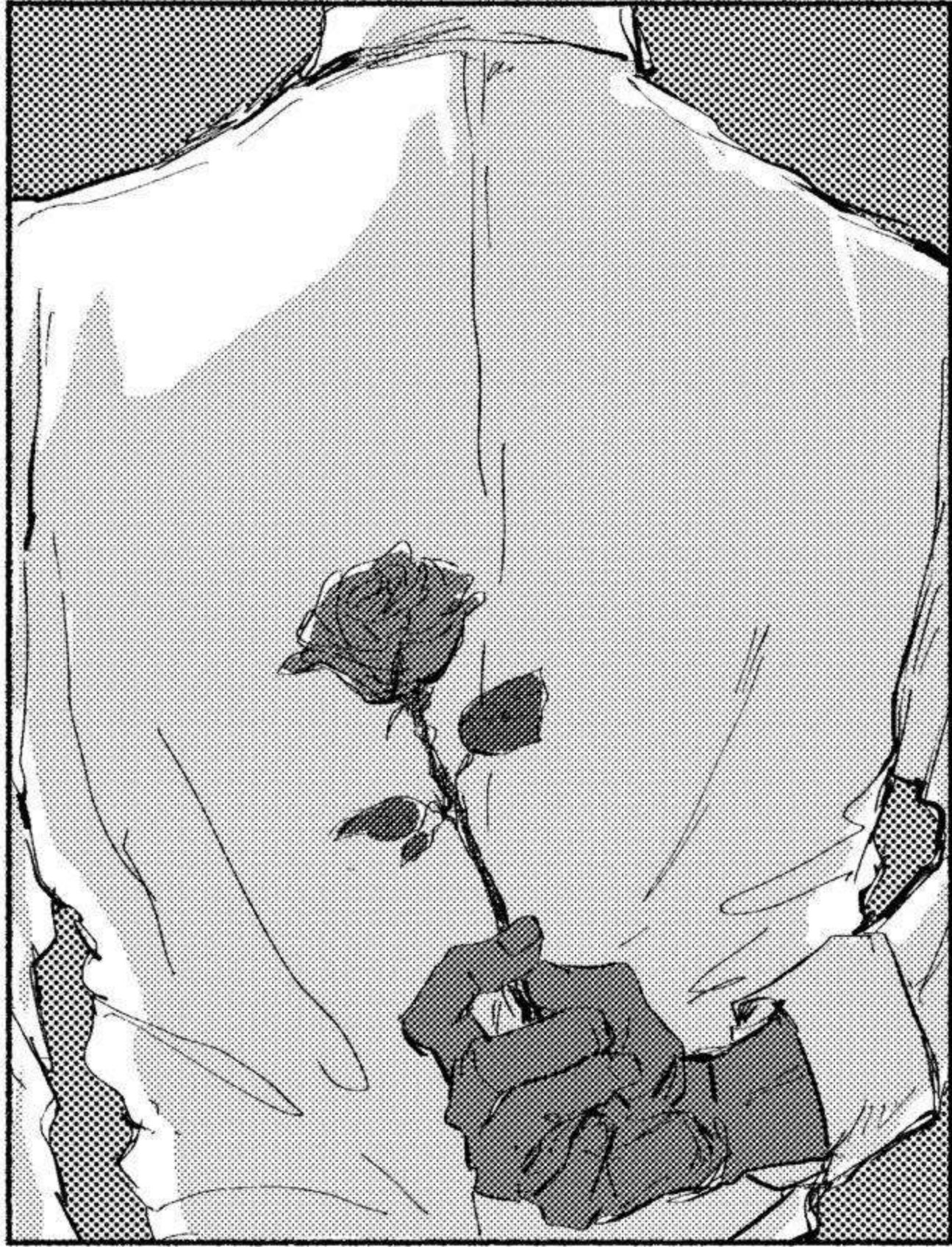
おはよ〜

お腹すいた〜



狸寝入りだ〜  
ずるいですよ





花 言 葉



バラ？



いや何でもないよ

花屋で見かけて  
ついお迎えしちゃった



今日何かの  
記念日でしたっけ

？



もちろん！

有名すぎて  
知ってますよ

一本だから…  
あなたしかいない  
ですよ



バラの花言葉って  
知ってるか？



好きだろ  
こういうの

ロマンチスト



誰のせいで  
こうなったんだか

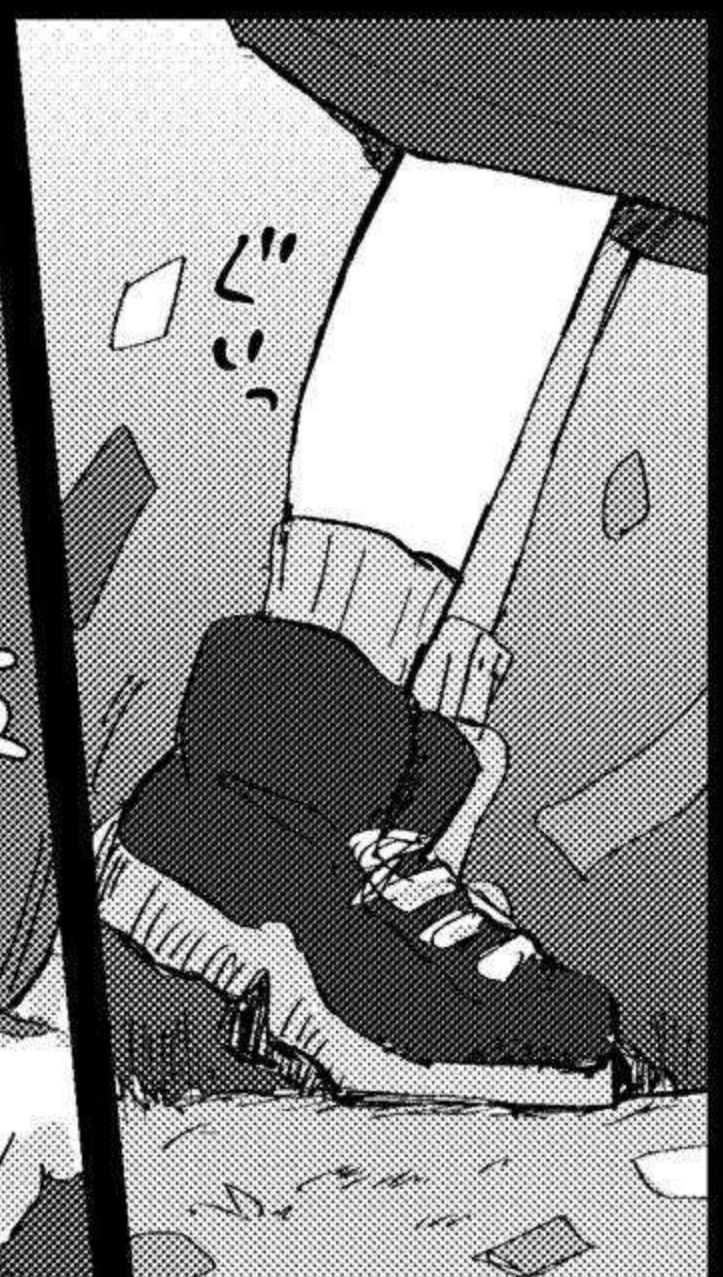
ねえキバナさん  
あたし今度の試合  
ニンフィア出して  
みようと思うんです

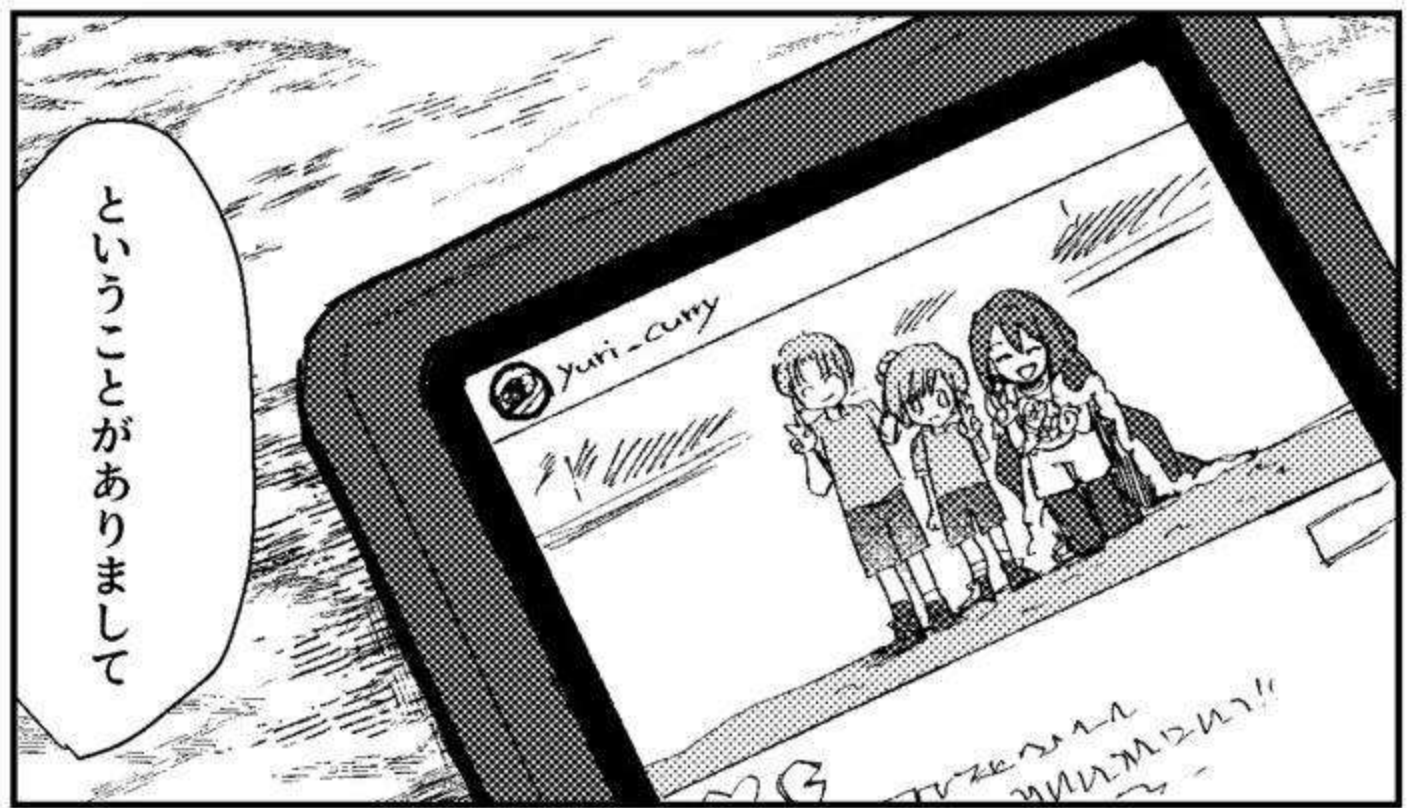
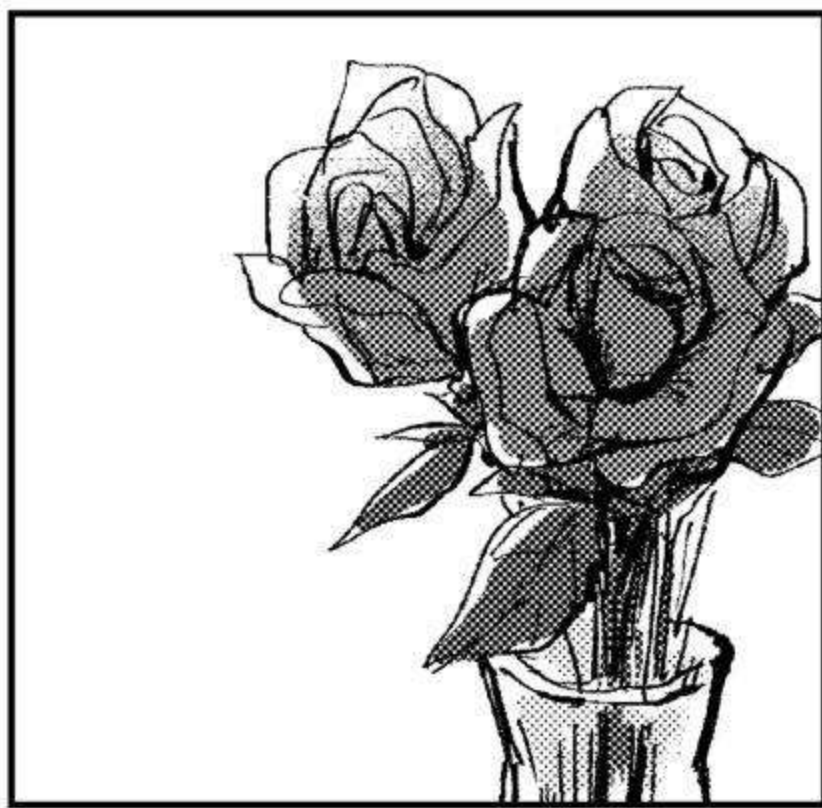
へえ、いいじゃん  
技構成どうすんの？

あはは！

キバナさま









あの子将来有望ですよ  
キバナさんのライバルに  
なっちゃったらどうしよ

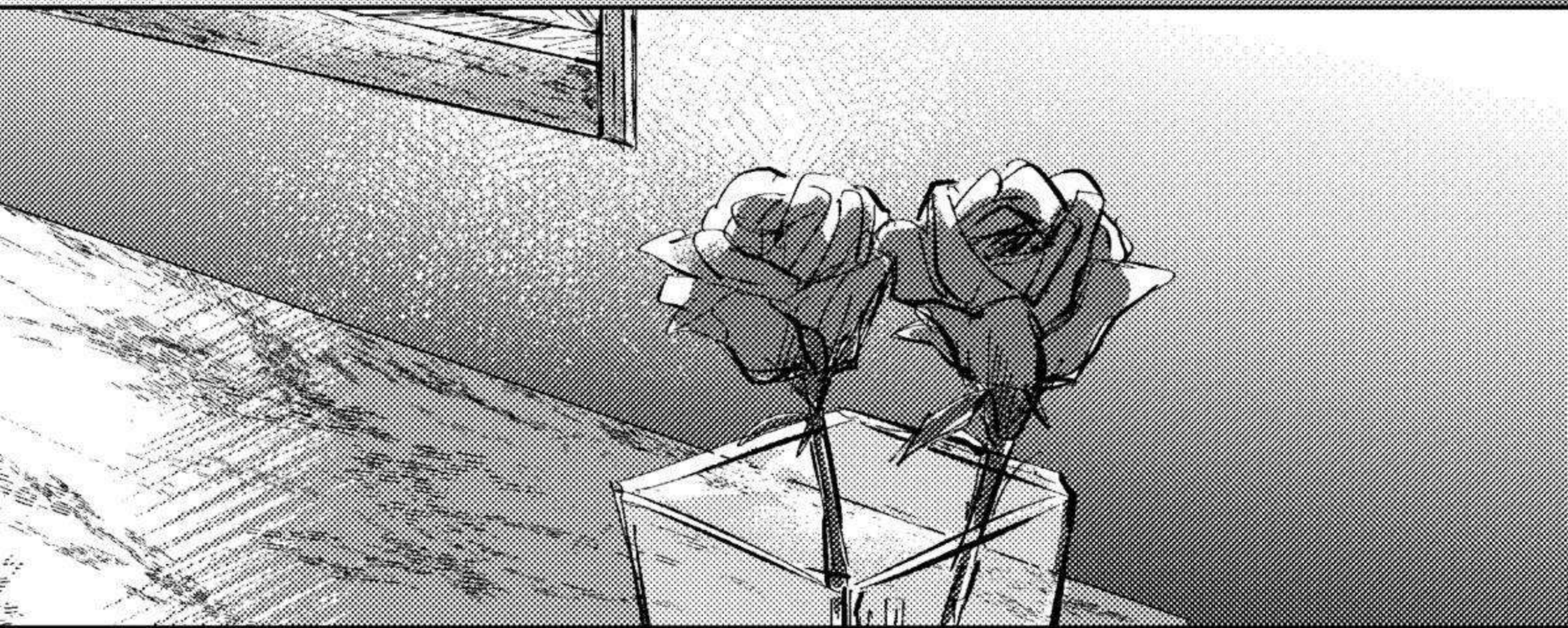
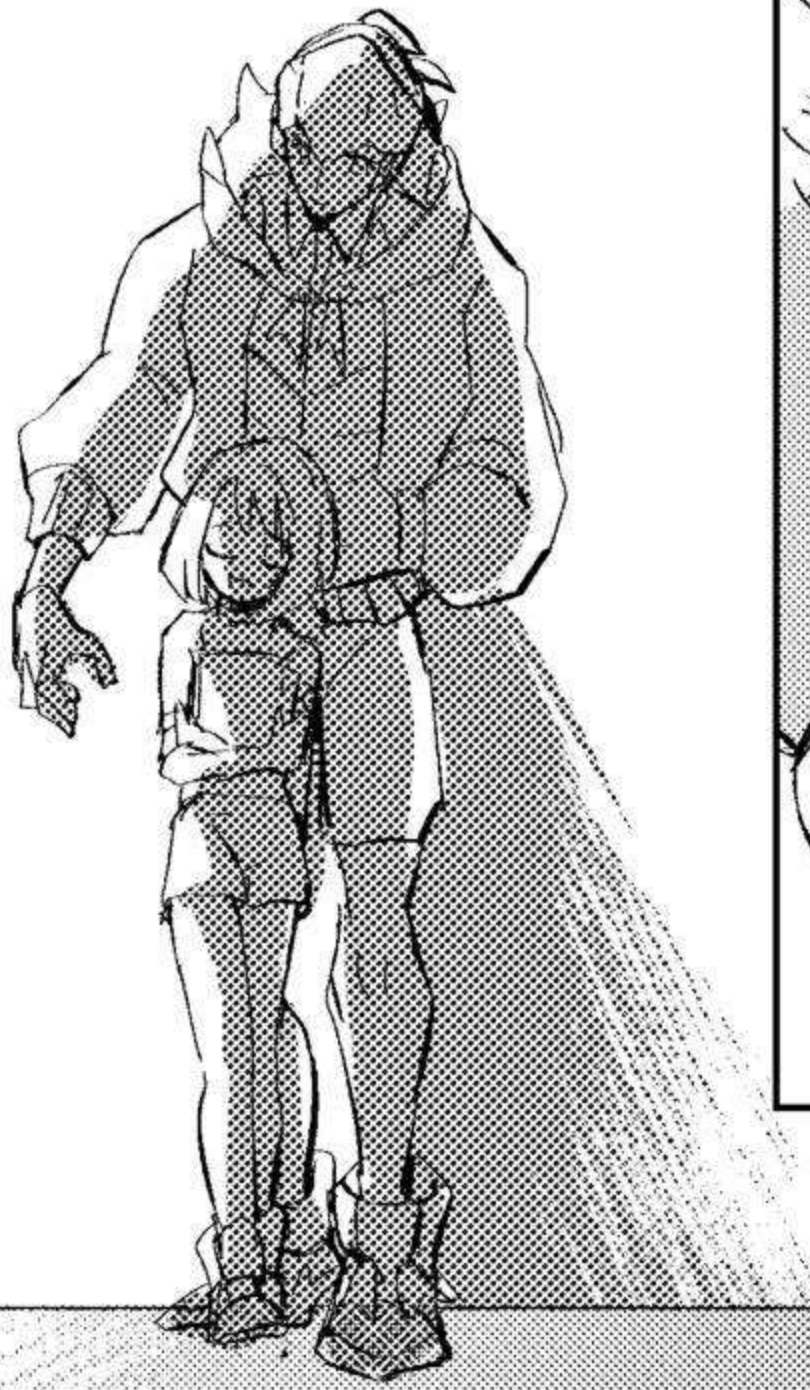
よくわかってるじゃん



バカやろ〜

何言ってるんだ  
ユウリもオレ様から  
離れる気全くないくせに

だって……









ああ！  
臨むところだ！

ダンデ！  
ひと勝負して  
いこうぜ！

少し見栄を張りたくなるものは  
大事な人の全てを知っているのは  
自分だけだと

ダンデはとても良い  
ライバルであり親友だ  
だからこそ教えたくない  
意地悪になるのもわかるだろう？





ユウリ

んん

どれも身につけた人が  
より魅力的になれるように  
手助けをしてくれる  
素敵なアイテムばかりだ

高級ブランド品の靴  
香水：化粧品  
豪華な洋服や靴

凄く綺麗だ

でも何故かな  
ユウリにはあまり  
沢山付けて欲しくないかな



や...  
はやく...来て

可愛い

似合わないとは  
思わない  
もう立派な女性だから

もう少し股開いて

ふあ

あああ

ズル  
ズル

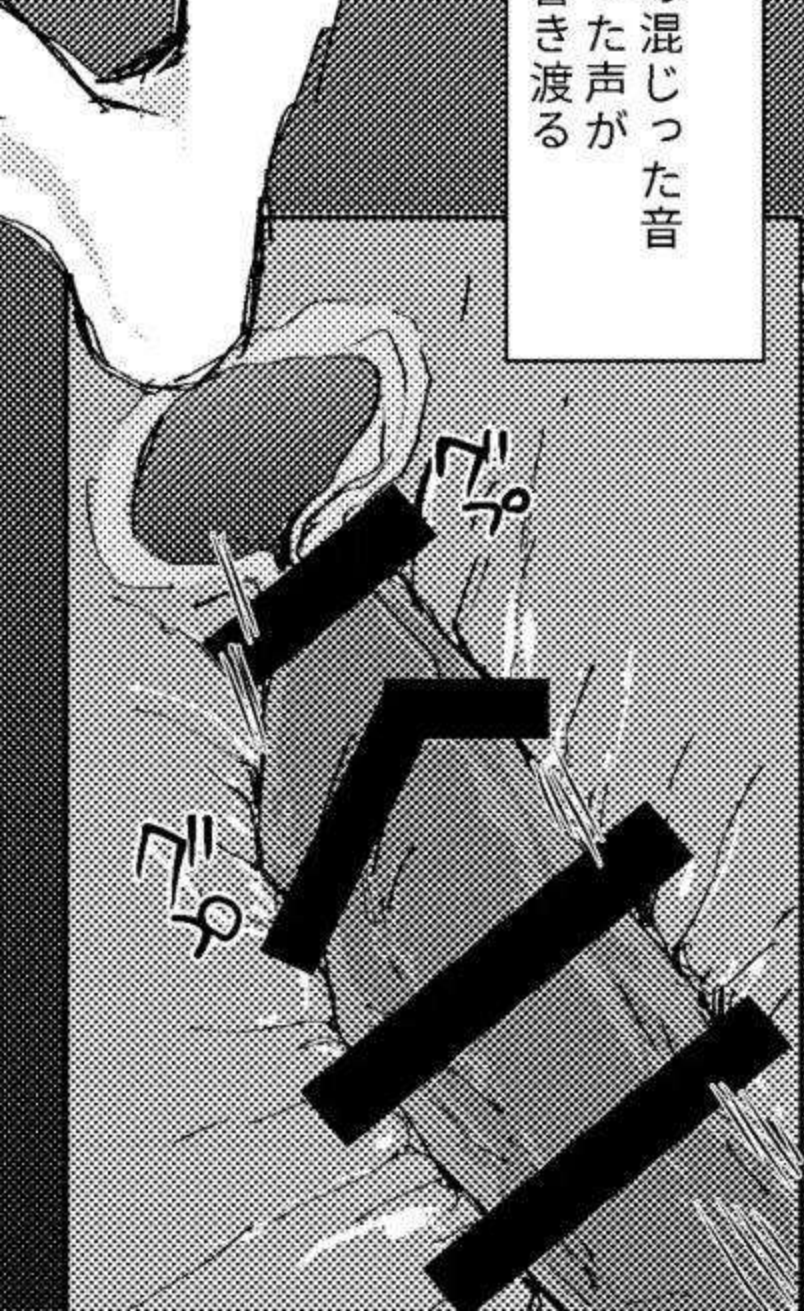
ズル  
ズル



欲しがりだな

何もかも曝け出した  
自然体の君が好きだ  
透き通る白に柔らかな弾力  
それに触れることを許されているのが  
俺だけだということ  
堪らなく込み上げてくる何かがある

肉と肉が弾けあう音  
行為を示唆する水気の混じった音  
お互いをただ求め合った声  
2人の空間に激しく響き渡る





んはっ

ユウリ…もう充分ツ…だ

焦らしちゃいや…

いじわる

全部

全部

キバナさん  
激しッ…

やッ

好きなくせに  
凄え締めつけてるぞ

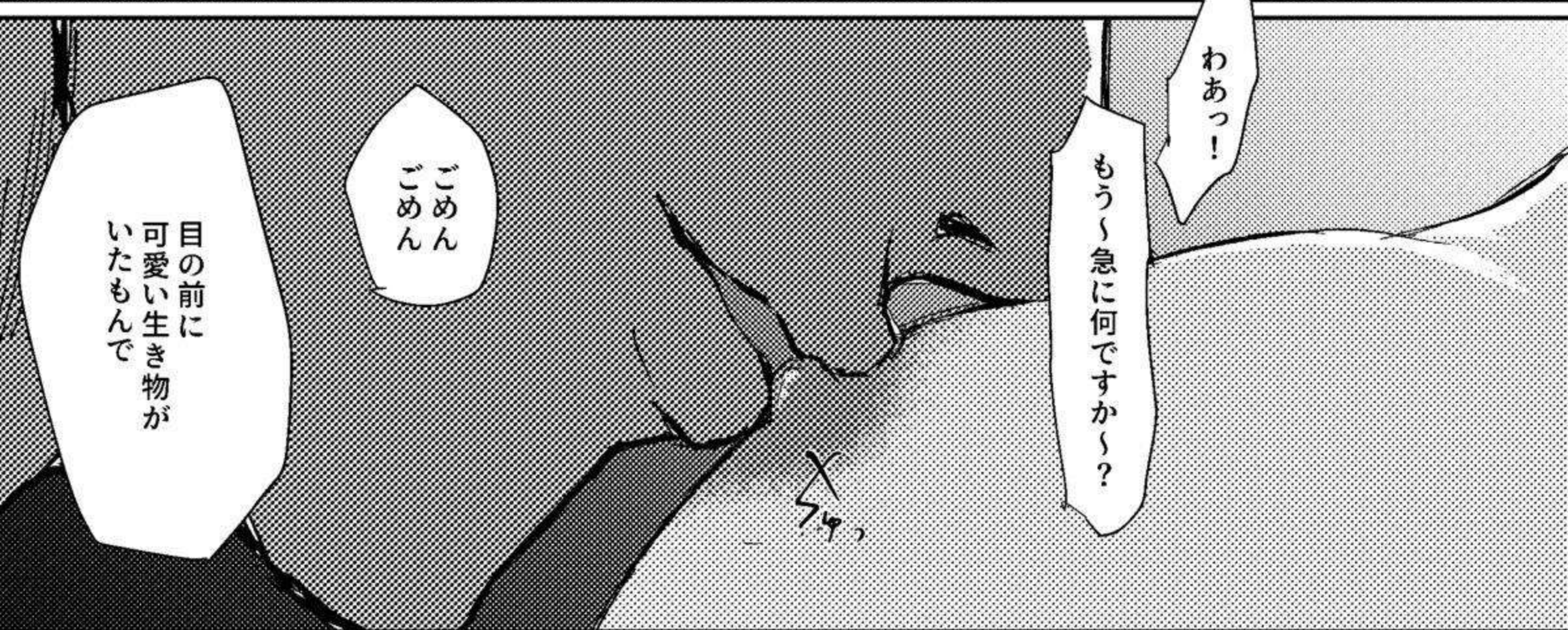
オレのものだ



ユウリ

綺麗だ

お前ほんとうに



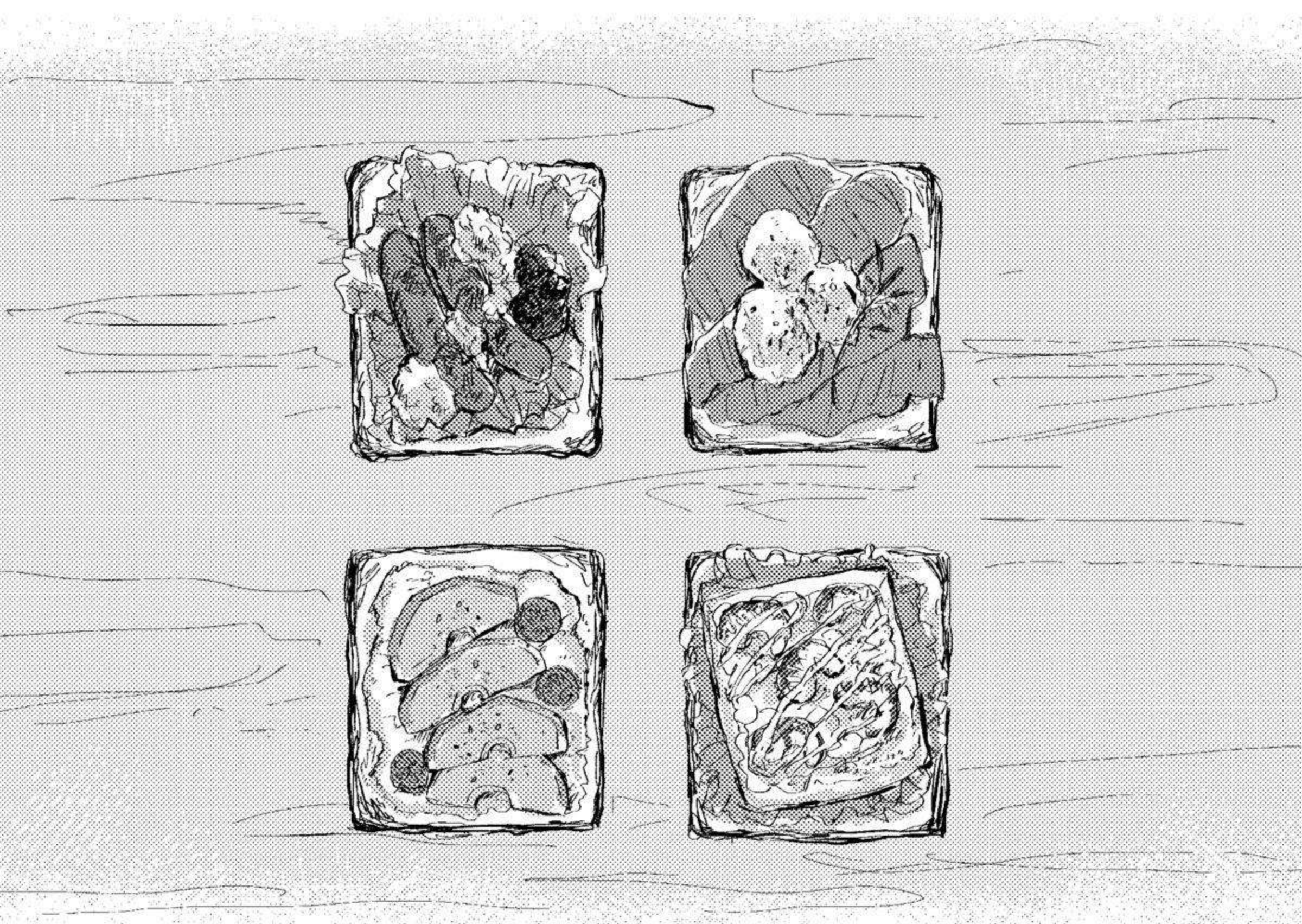
わあっ！

もう、急に何ですか？

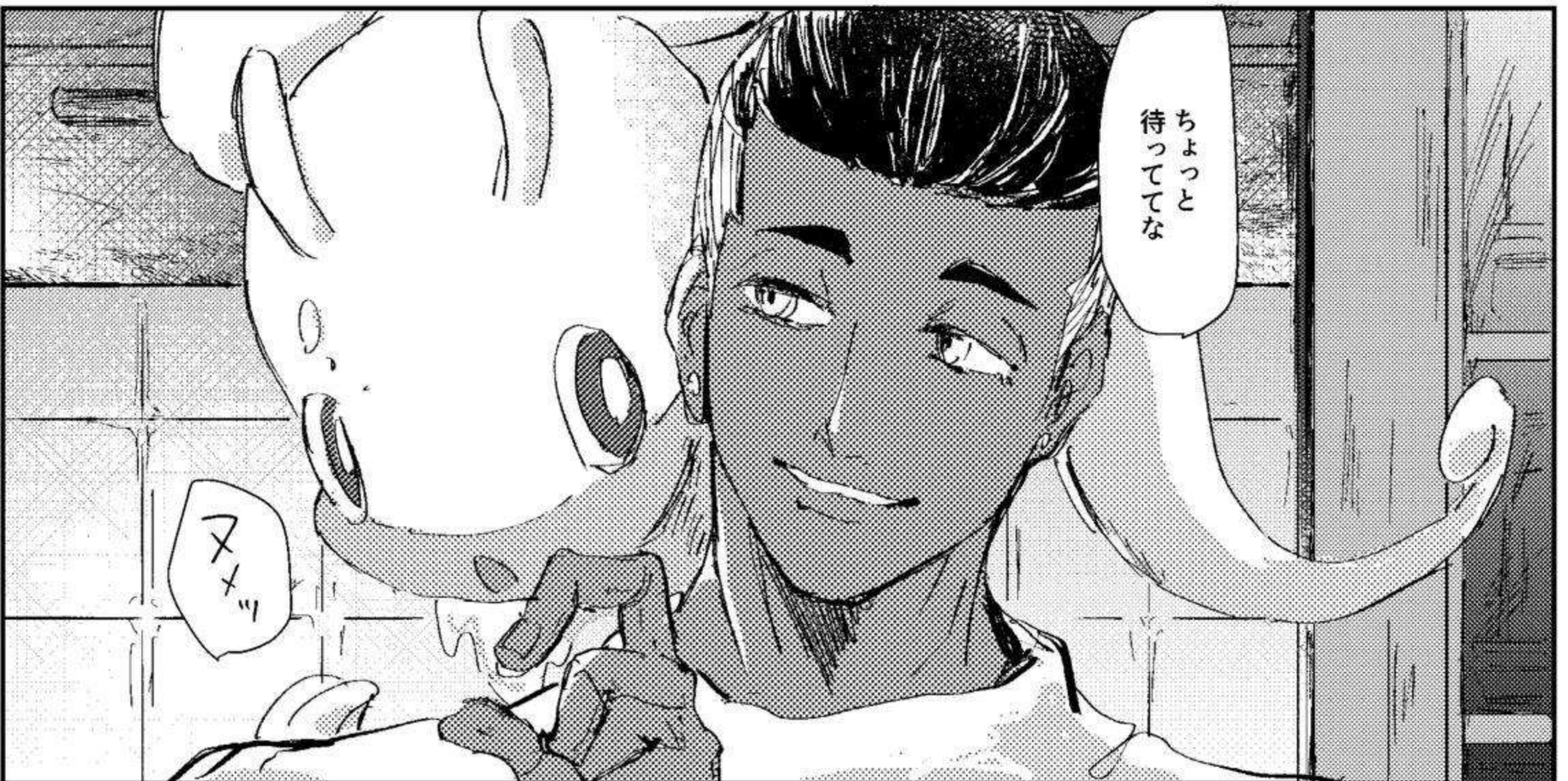
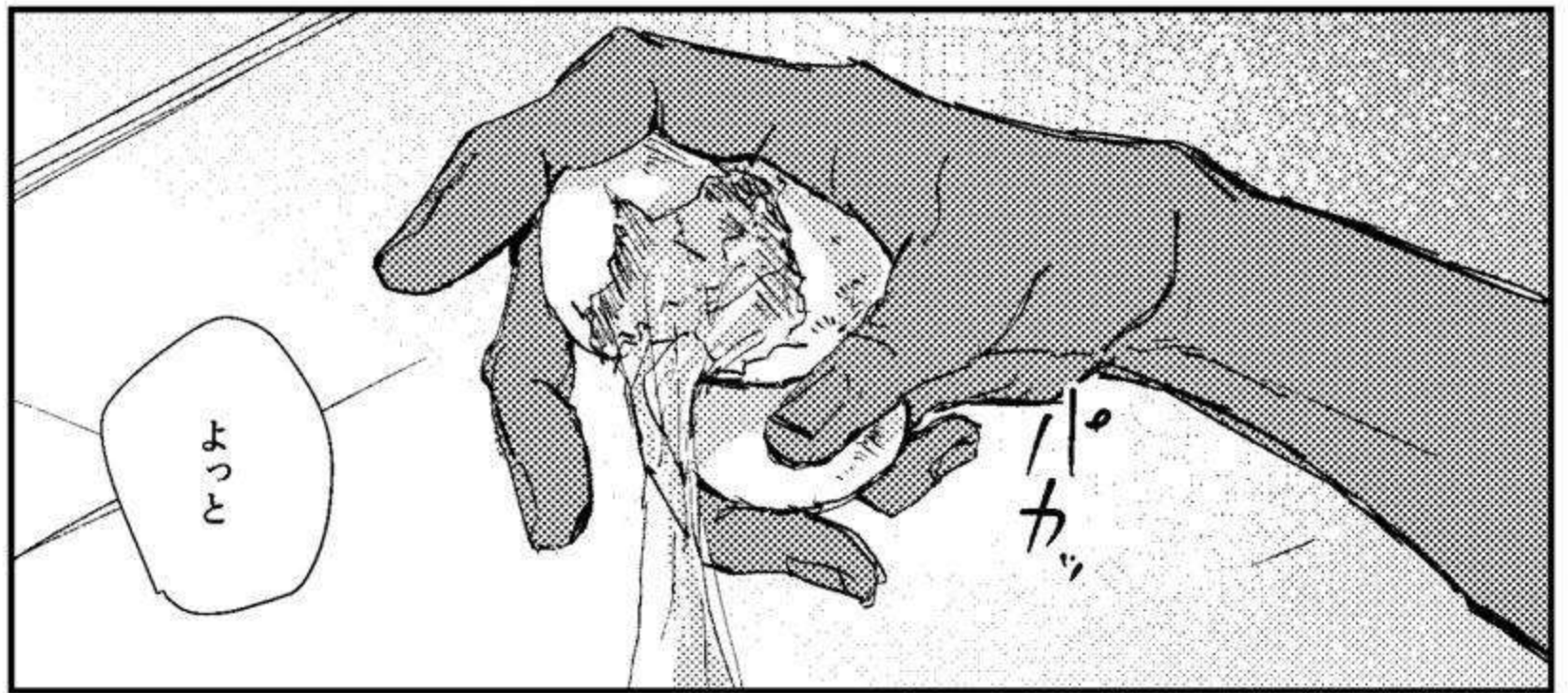
ごめん  
ごめん

目の前に  
可愛い生き物が  
いたもんで

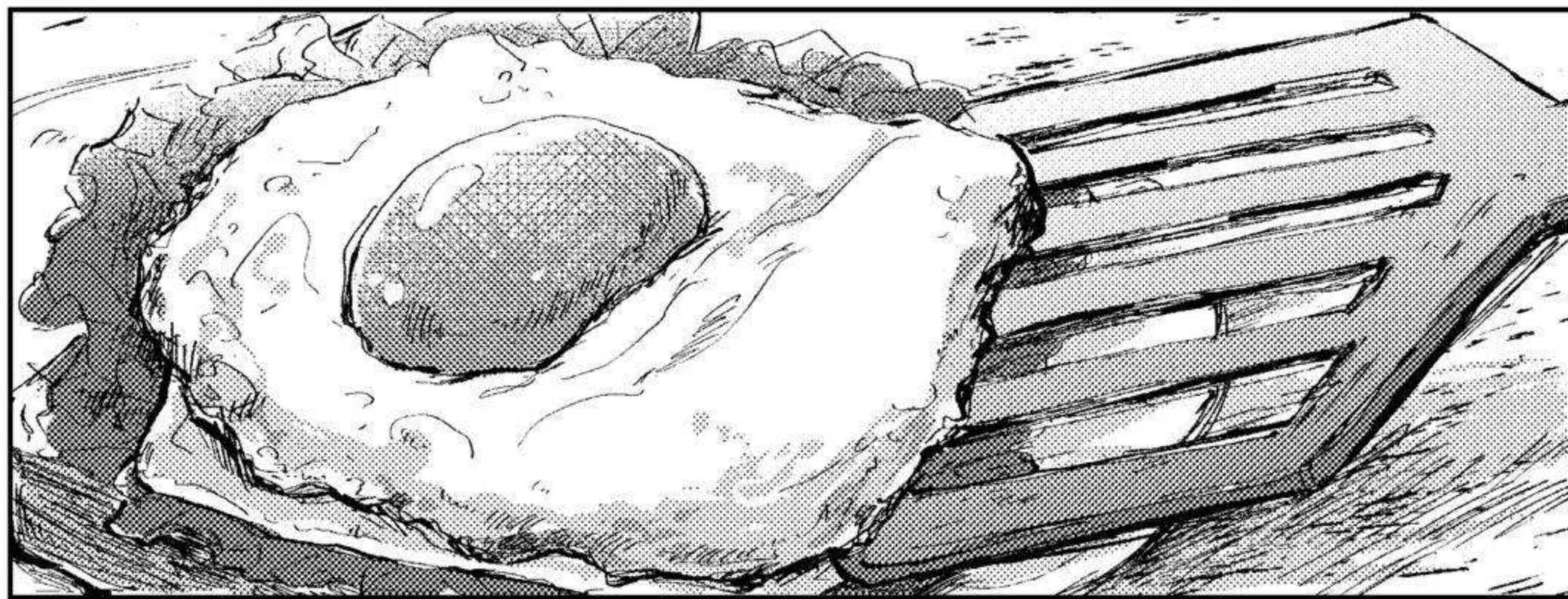
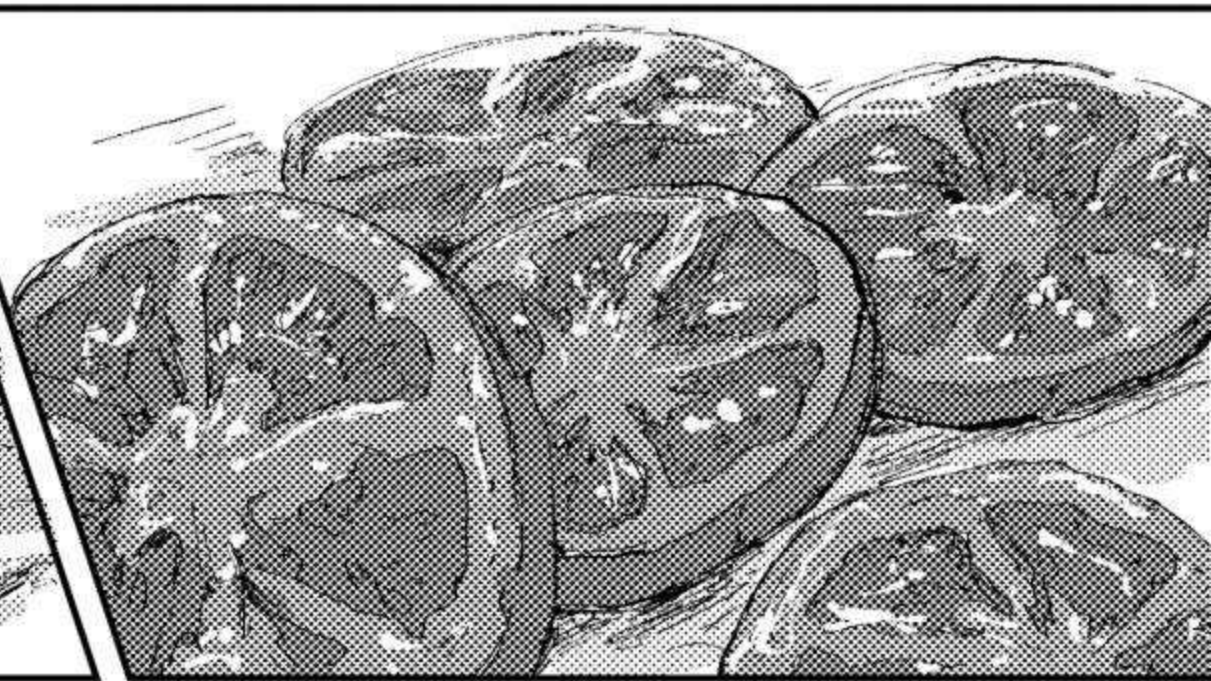
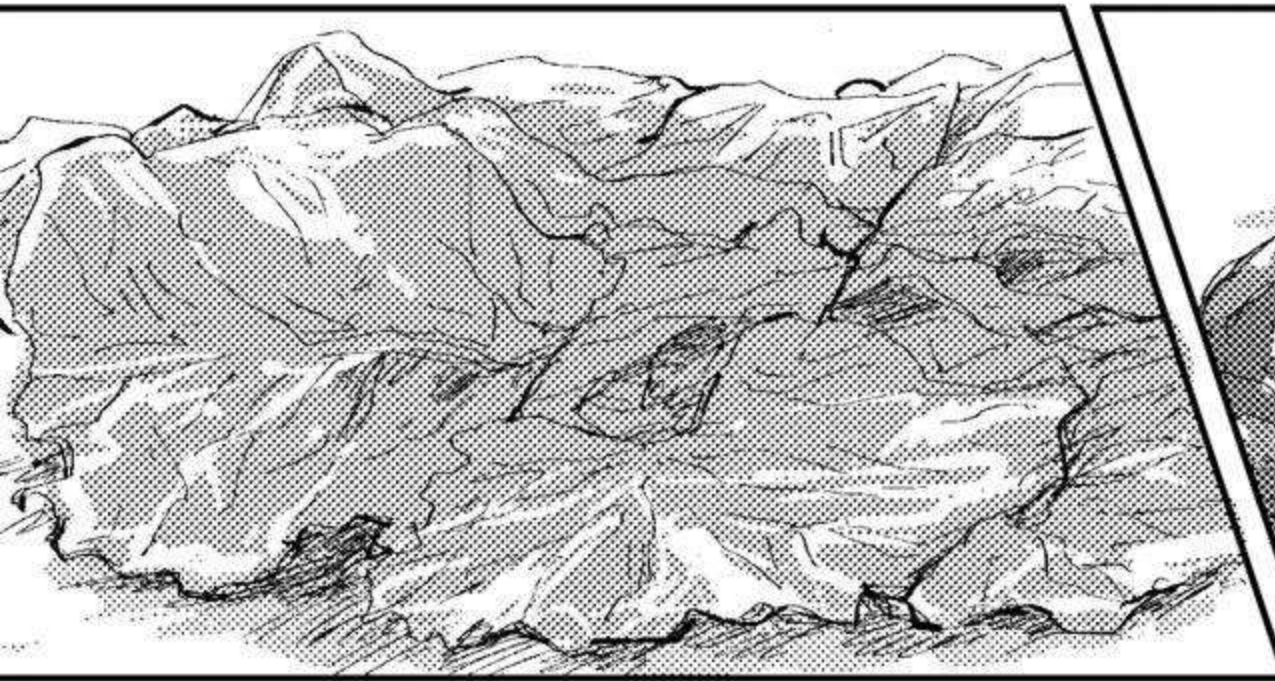
X  
74



**Good morning!**

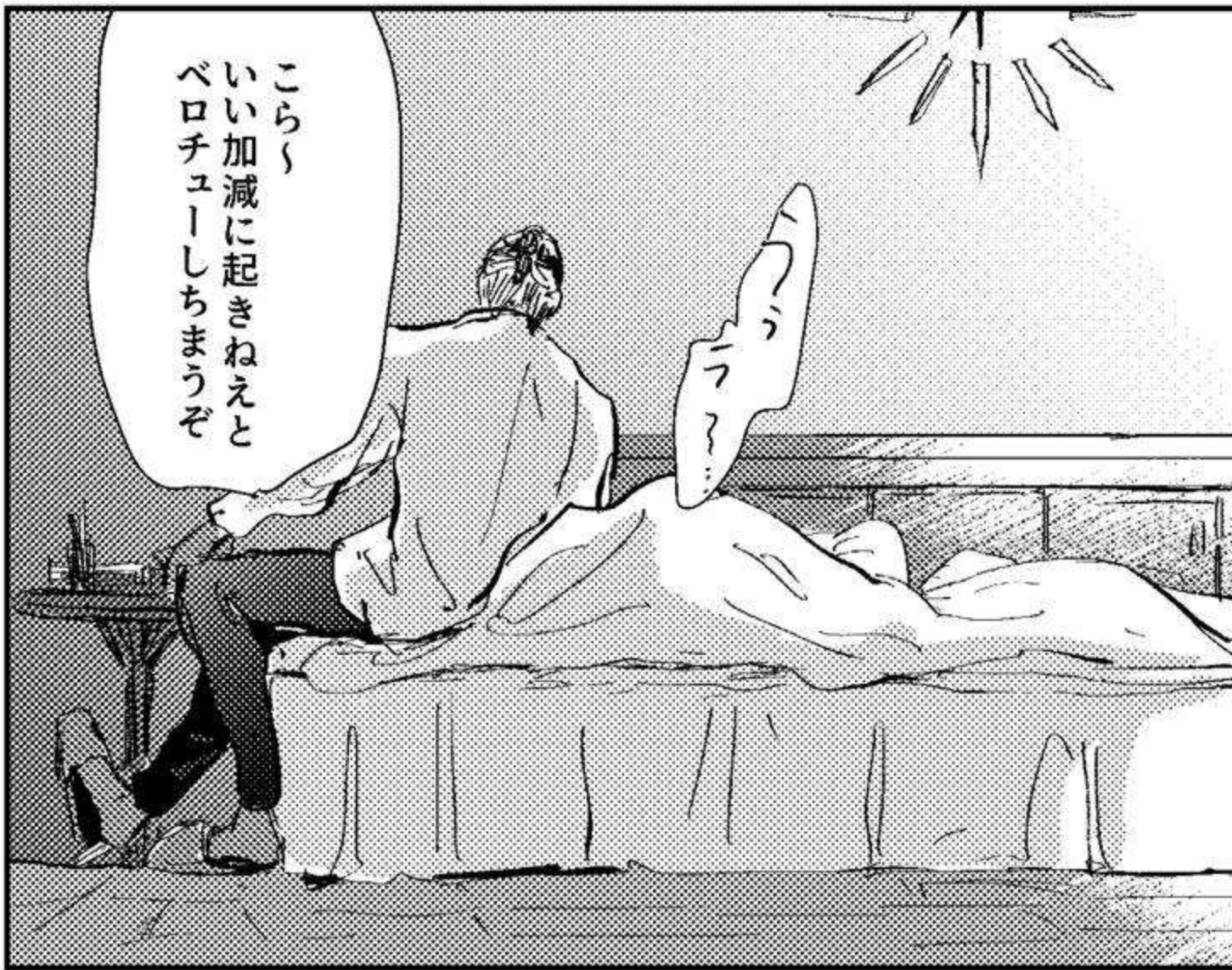






起きて

ほらユウリ





やべユウリ  
オレ様のちんこが…

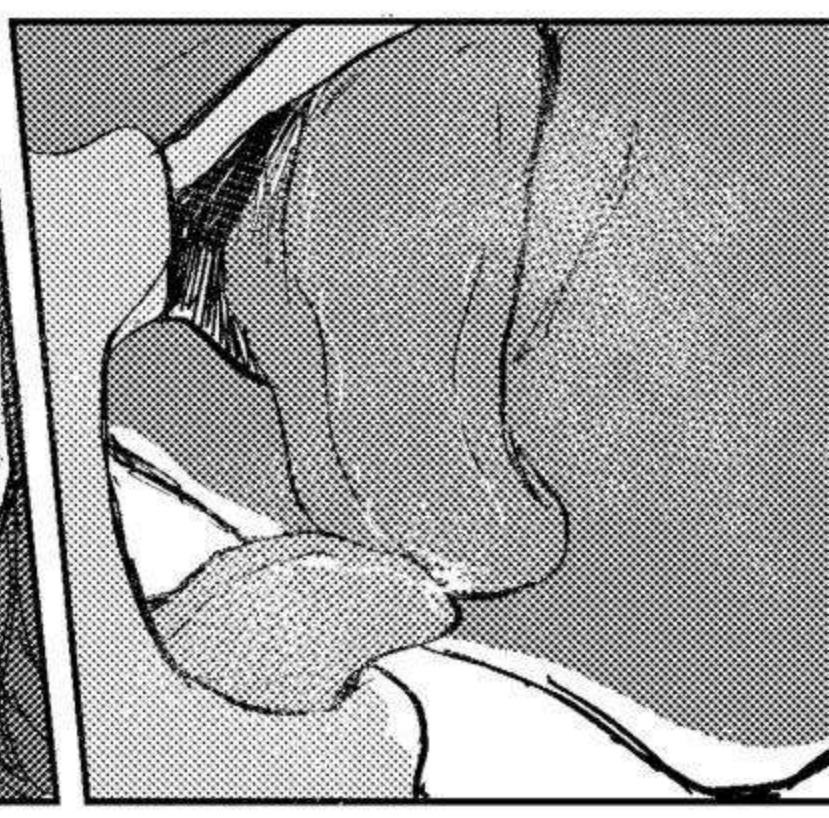
もう！朝からは  
だめですよ！  
小さくしてください

そんなあ



ん…

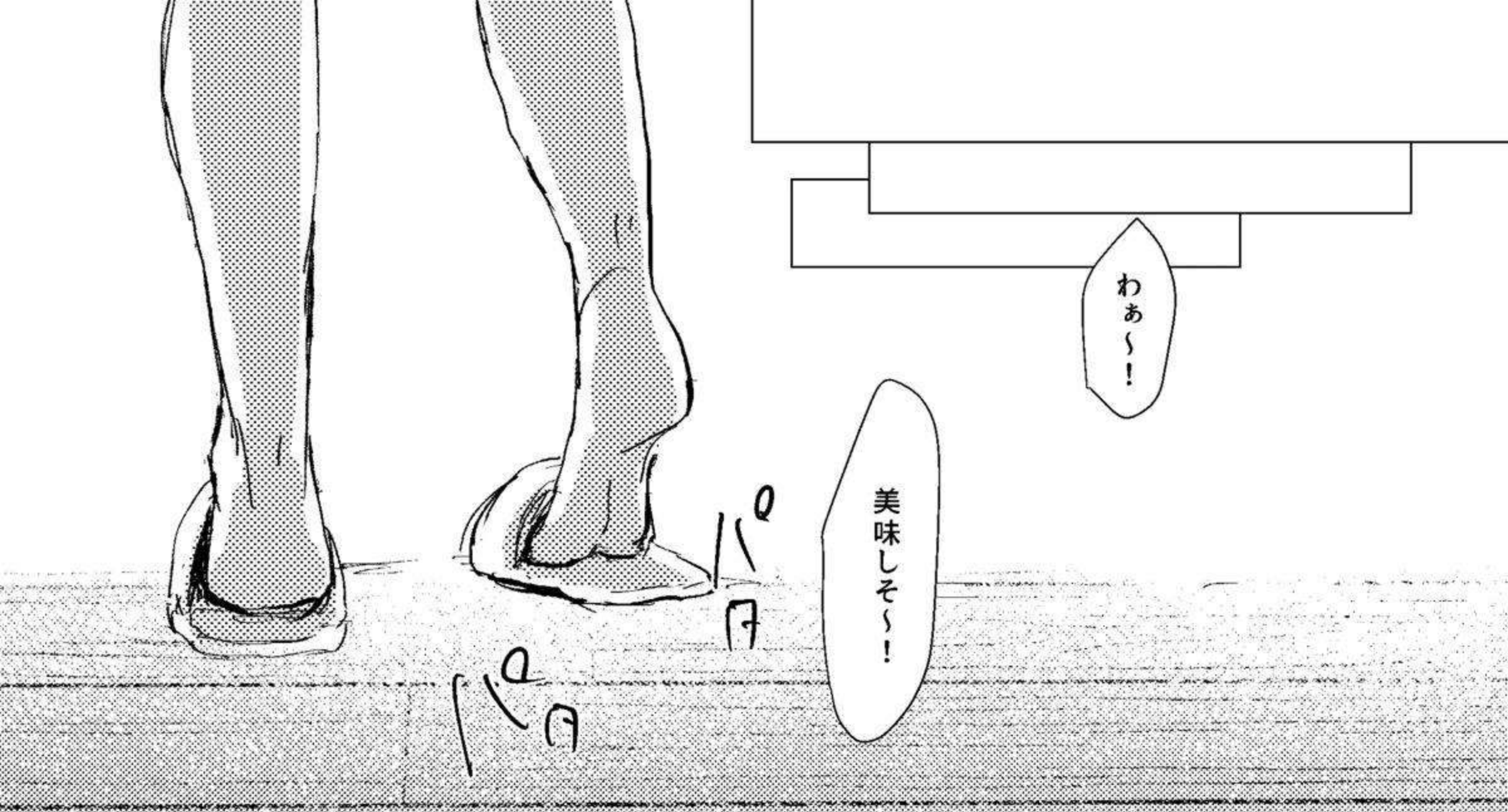
んふう



キバナさ

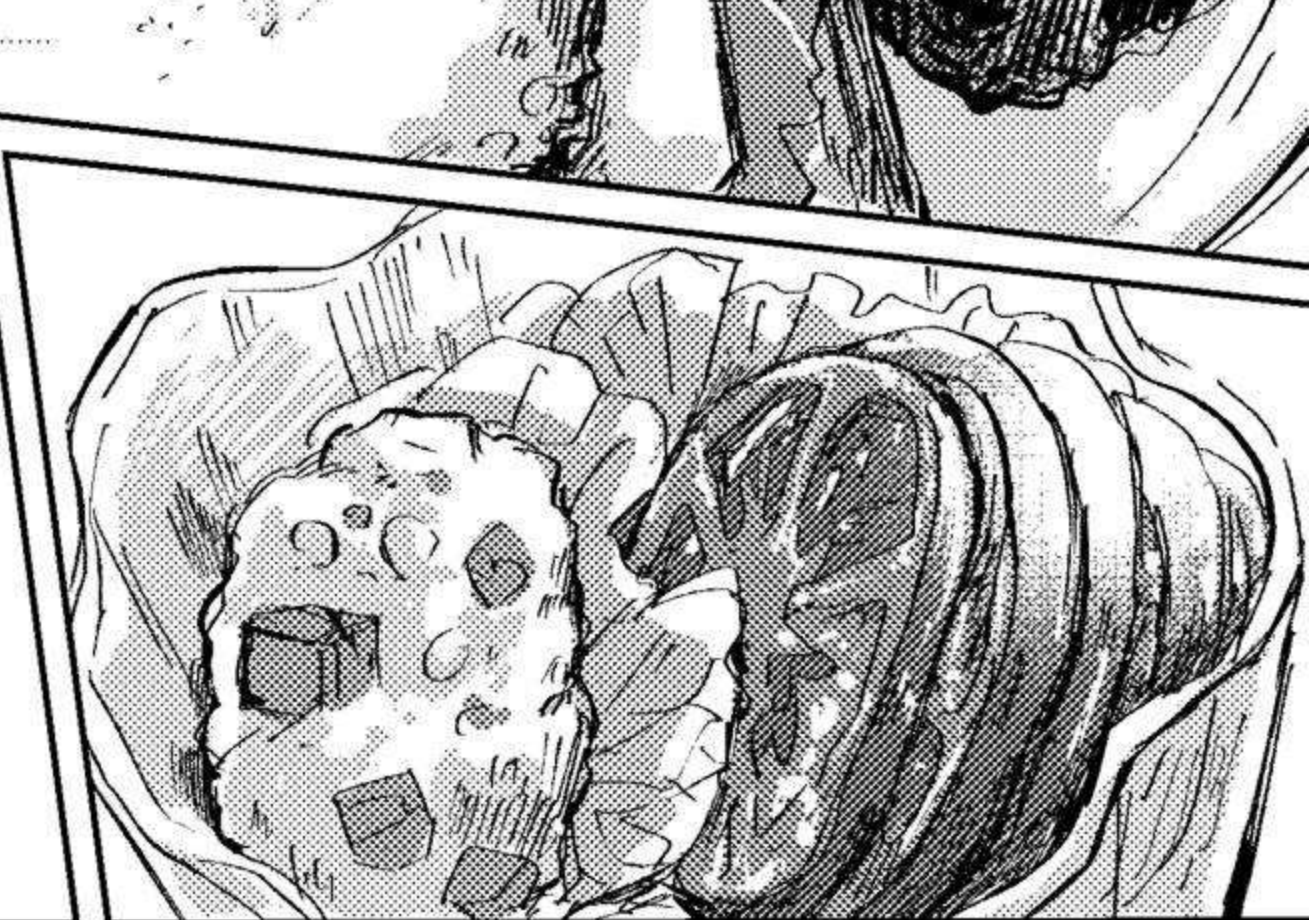
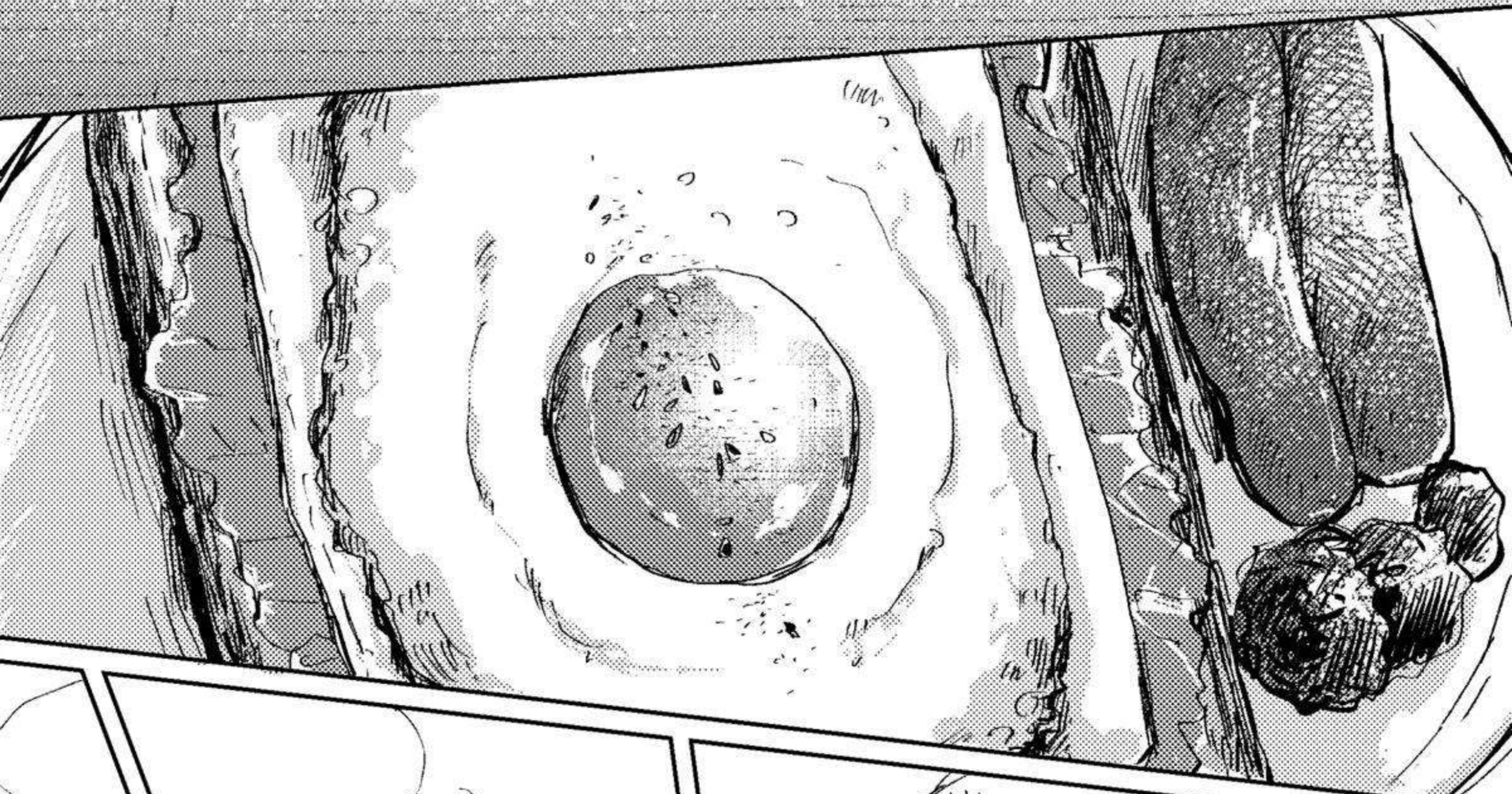
ん

んはあ…



わあ〜!

美味しそ〜!





寝ぼすけさん

ご感想は？



キバナさん  
天才！

んゝ

何れ作のり  
考えれば  
買物をする

買物リストに  
ある商品 + お子や  
持てる (pl-  
pl-)



何れ作...

という思想。

夢の  
後先



時々



真っ暗な夢を見る







まって...



大切な貴方が



キバナさん!



待って!



キバナさん!

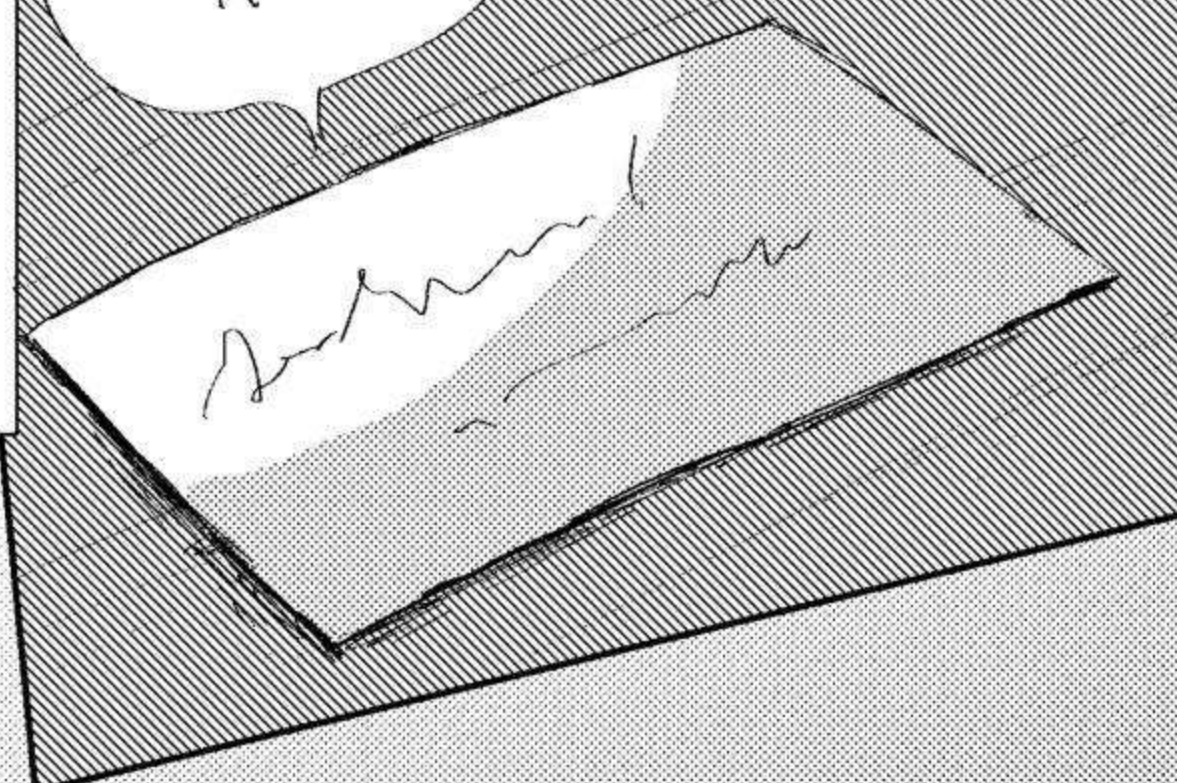
真っ暗な闇の中に  
吸い込まれて見えなくなって  
しまう夢を

いやあ!!!

一人にしないで!!!



朝作のreply  
戻して!



そんなこと  
あるわけがないのに

ほんと  
料理上手

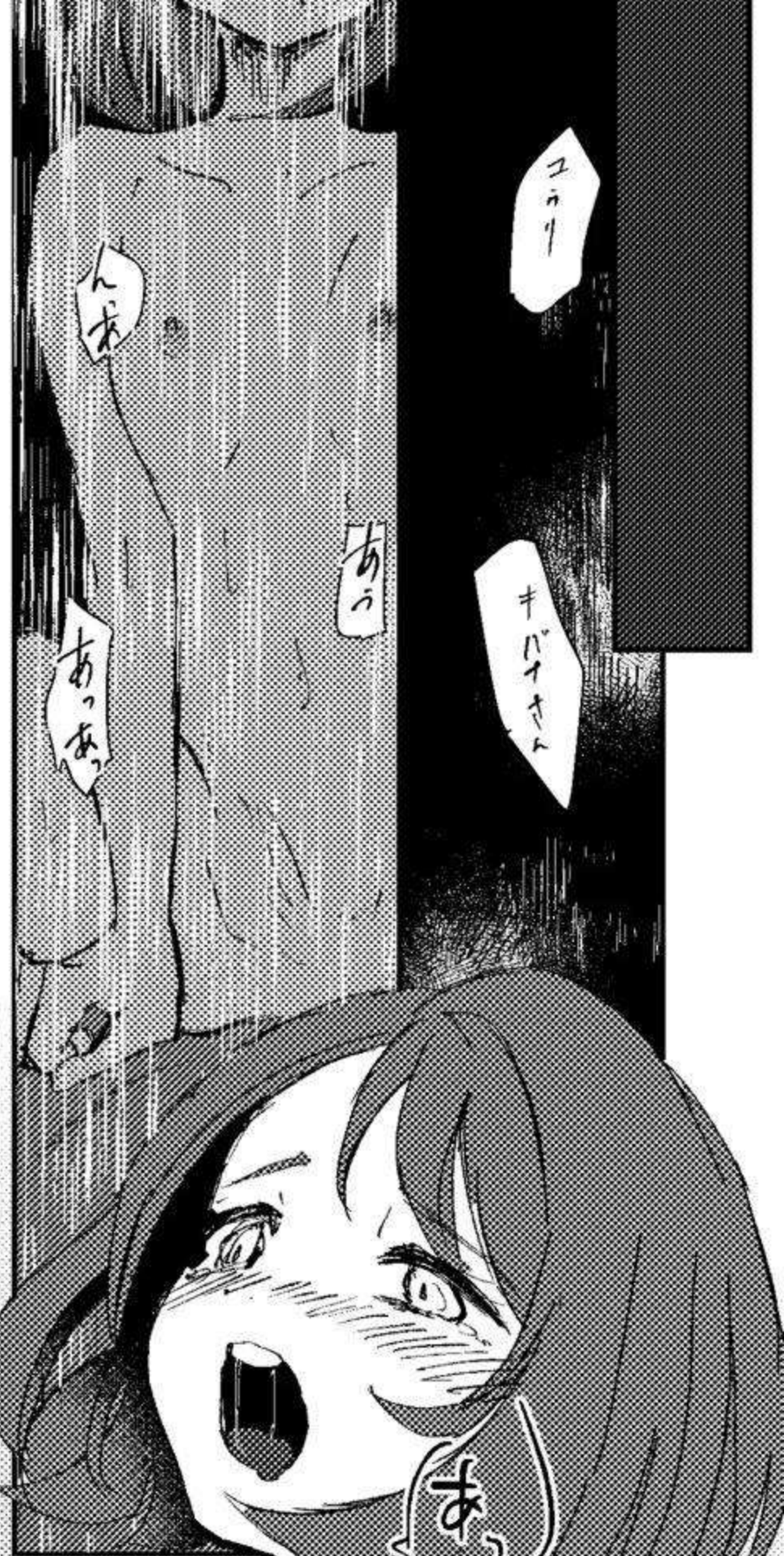


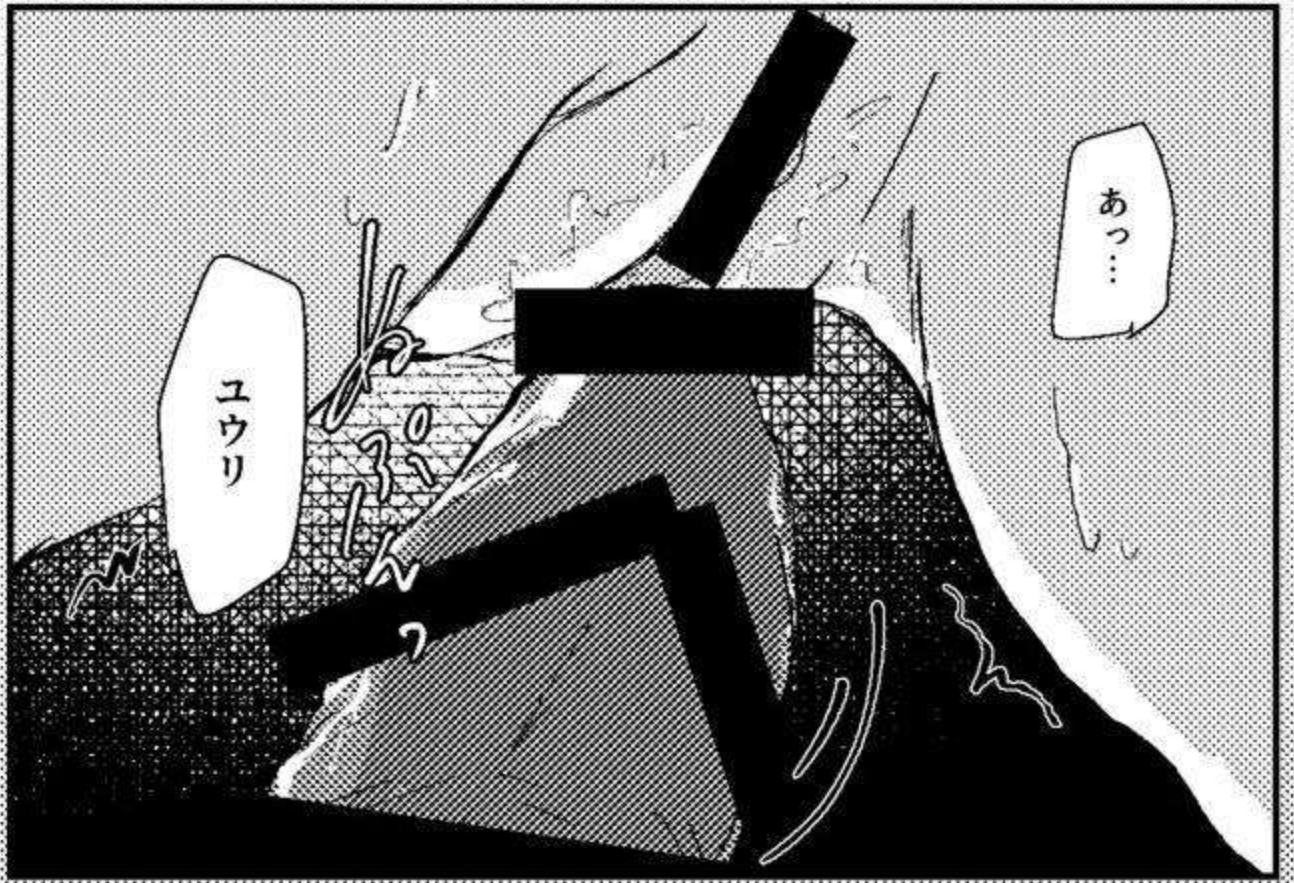
どうしてあんな夢を見てしまうんだろう  
キバナさんのこと信じきれないのかな

そんなことない大好きな人だから  
悪い方に考えるからダメなんだ  
たかが：夢なんだから：考えるな

早く  
会いたい









分からない  
どうしてこんな夢  
見ちゃうんだらう

こんなにもキバナさんの  
こと大好きで大好きで  
仕方ないのに…

…ごめんなさい  
もう今日は  
寝ましようか

キバナさんが真っ暗な  
世界に吸い込まれて行く夢

時々見るの

あたし一人残して



だからそれくらい  
オレ様も頭ん中ユウリで  
いっぱいいっぱいなの



ユウリは本当にオレ様のこと  
大事に想ってくれてんだな  
ありがとよ

知ってるか？  
そういう夢ってさ  
相手のことを想ってるほど  
見やすくなるんだぜ？

そりゃ  
泣いちゃうよな

…オレも見ると  
そういう夢

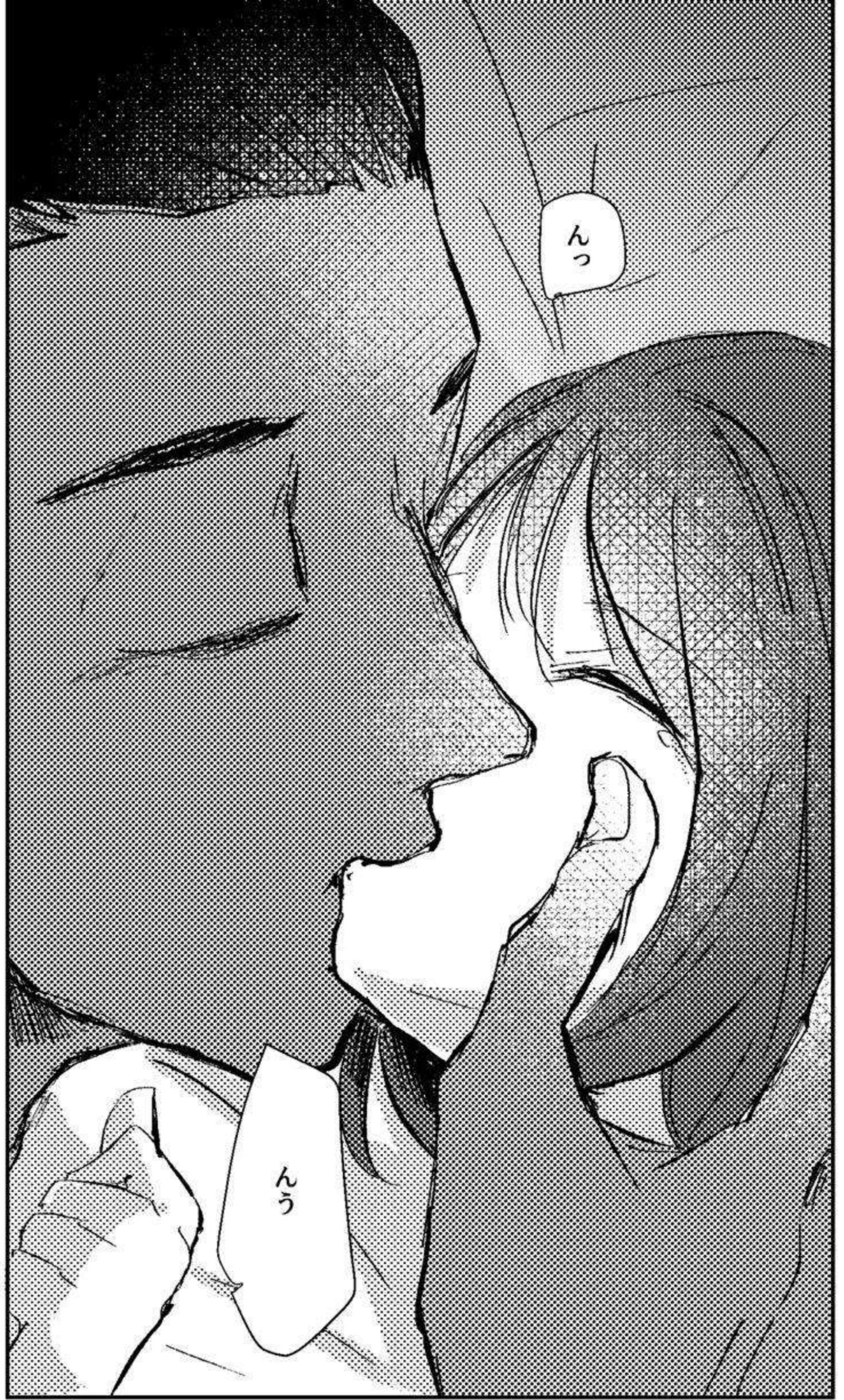


もう一回…  
したい

ユウリ

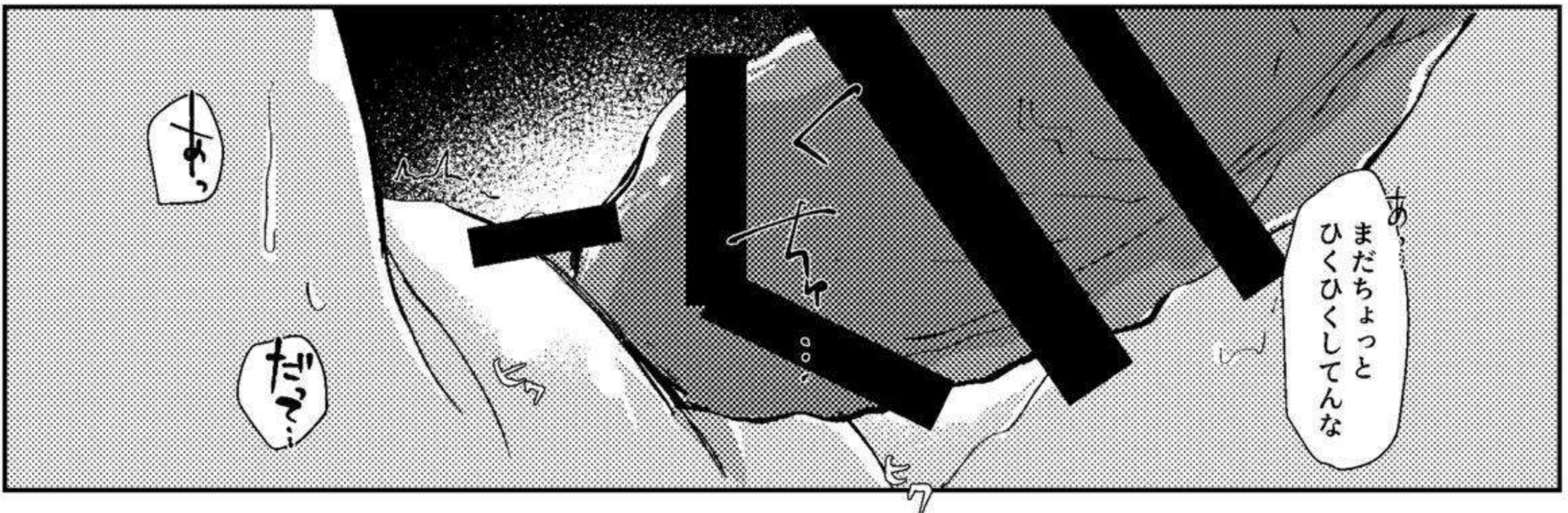
…うん

あたしも



んっ

んう



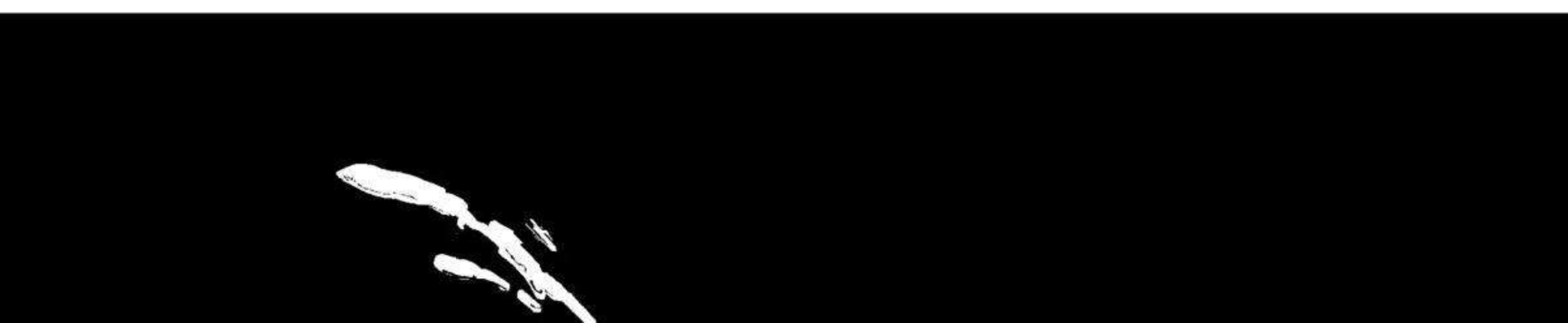
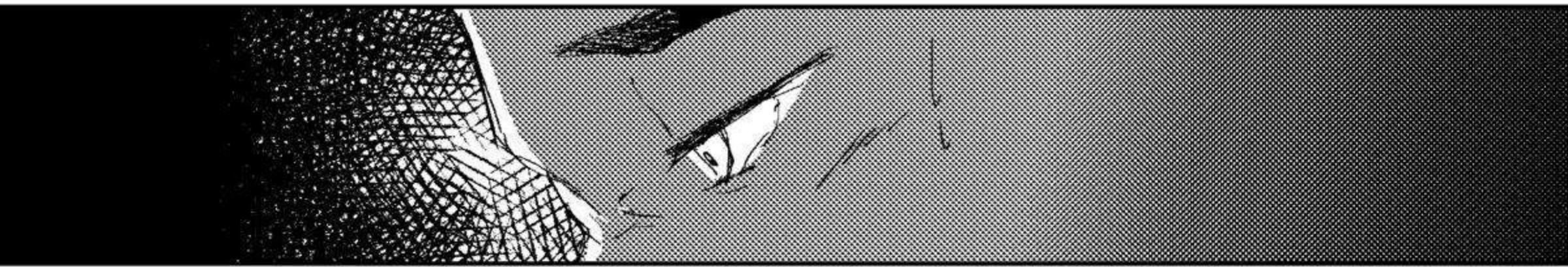
まだちょっと  
ひくひくしてんな

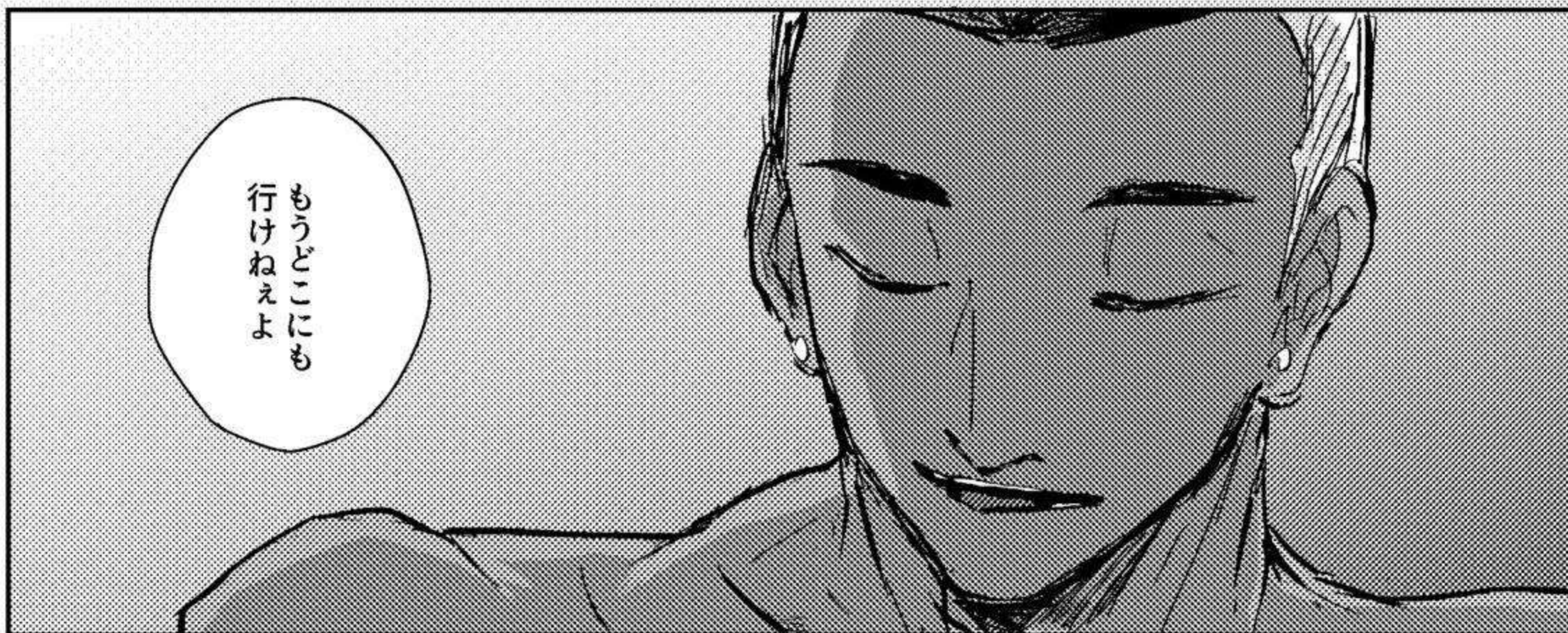
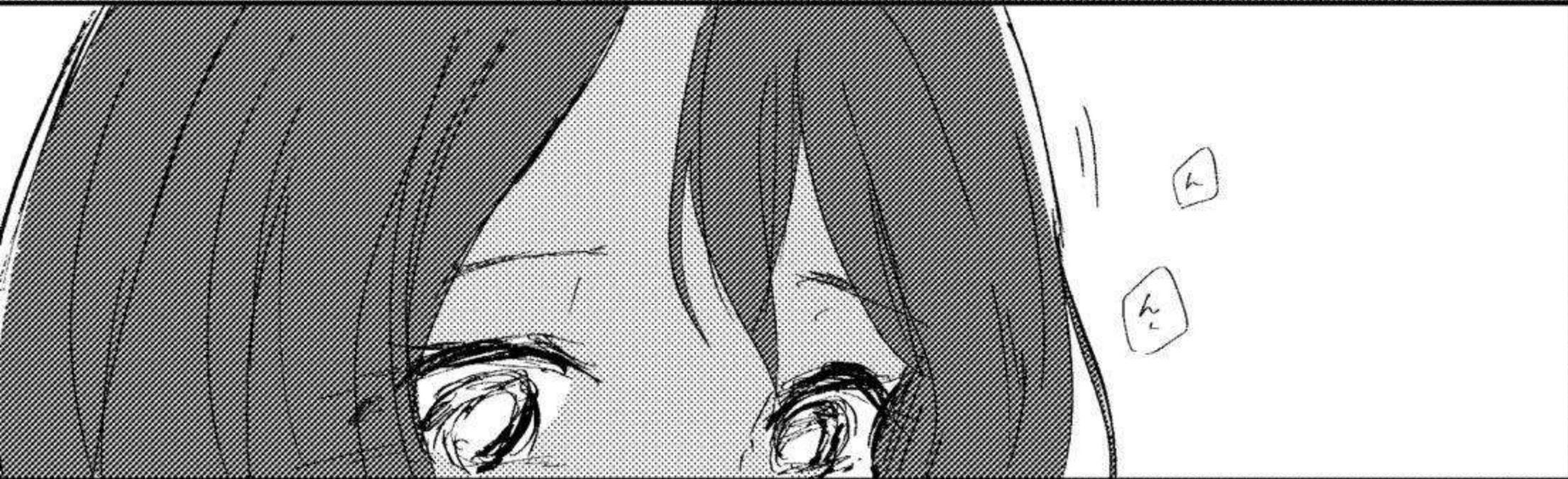
んっ

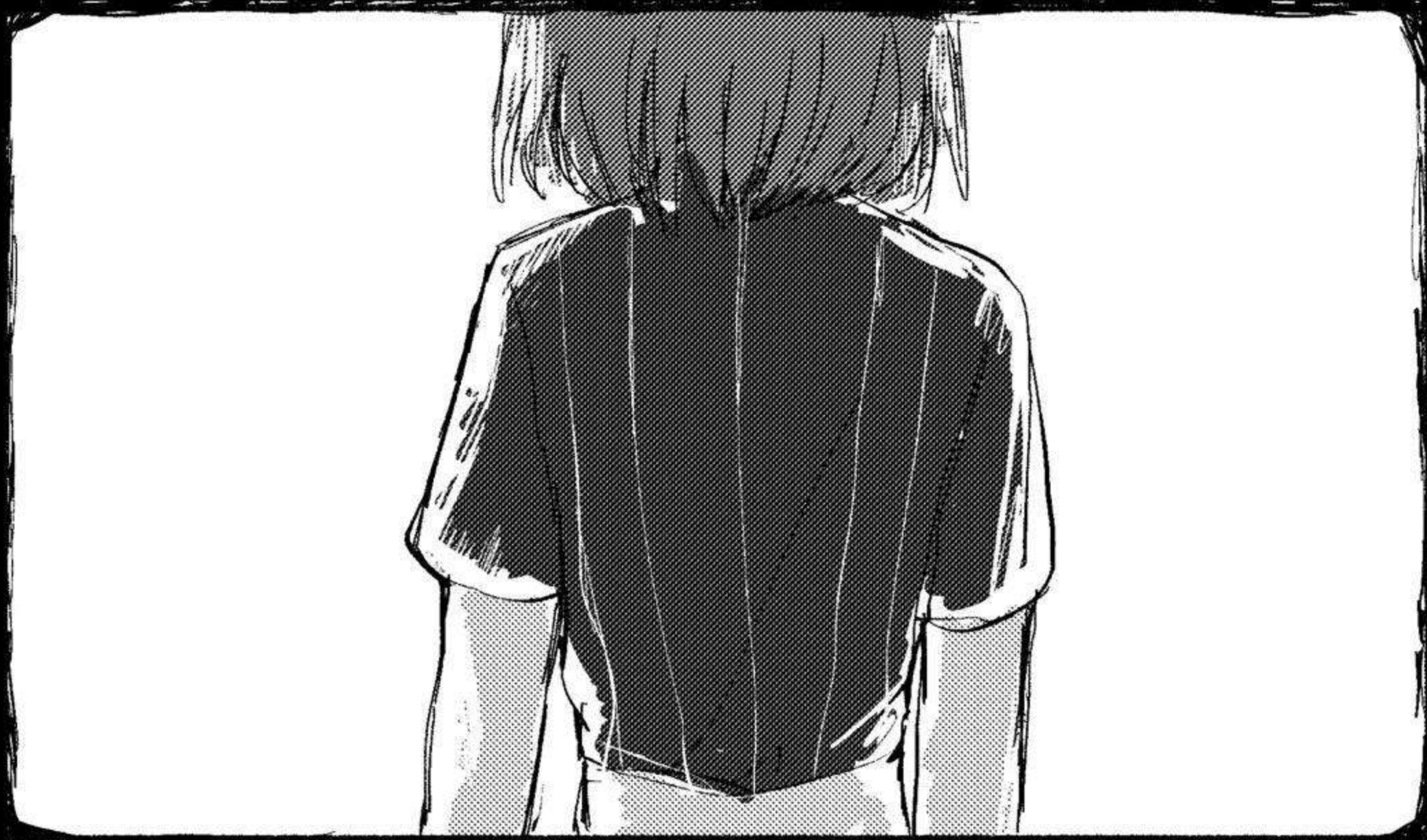
んっ











「王」

王は

泣いちゃ  
いけないんです



付き合う前のユウリは  
時々無理に強がる部分があった



何で？



そういう時は  
決まってダンデの名を  
口にした

「ダンデさんは  
いつも前を  
見ていた」  
「立ち止まることを  
しなかった」

「完璧だった」



無理するな  
休めよ

最近お前のバトル  
楽しそうじゃねえよ

ユウリらしくない

今思えばとても浅い言葉だった

ただあの時は必死だった  
お前の苦しい姿を見たくなかったから



なあユウリ

お前ダンデじゃないだろ

そんな言葉たちは彼女を  
逆に大きく傷つけてしまった

お前に一体  
何が分かるんだと  
言われた

その通りだった  
すぐに何も  
言い返せなかった

そうだ  
あの時のオレは  
分かっている  
フリをしていた

彼女のことを  
本当は何にも知らない

「王」という  
言葉は

とても重すぎる

周りの変化  
方向性の違い

前者が積み上げてきた  
これまでの功績  
それら全てを背に持つ責任感

そんなの立っているだけでも  
やっただろうに




そんなユウリを  
抱きしめた


とても



細く



壊れそうで

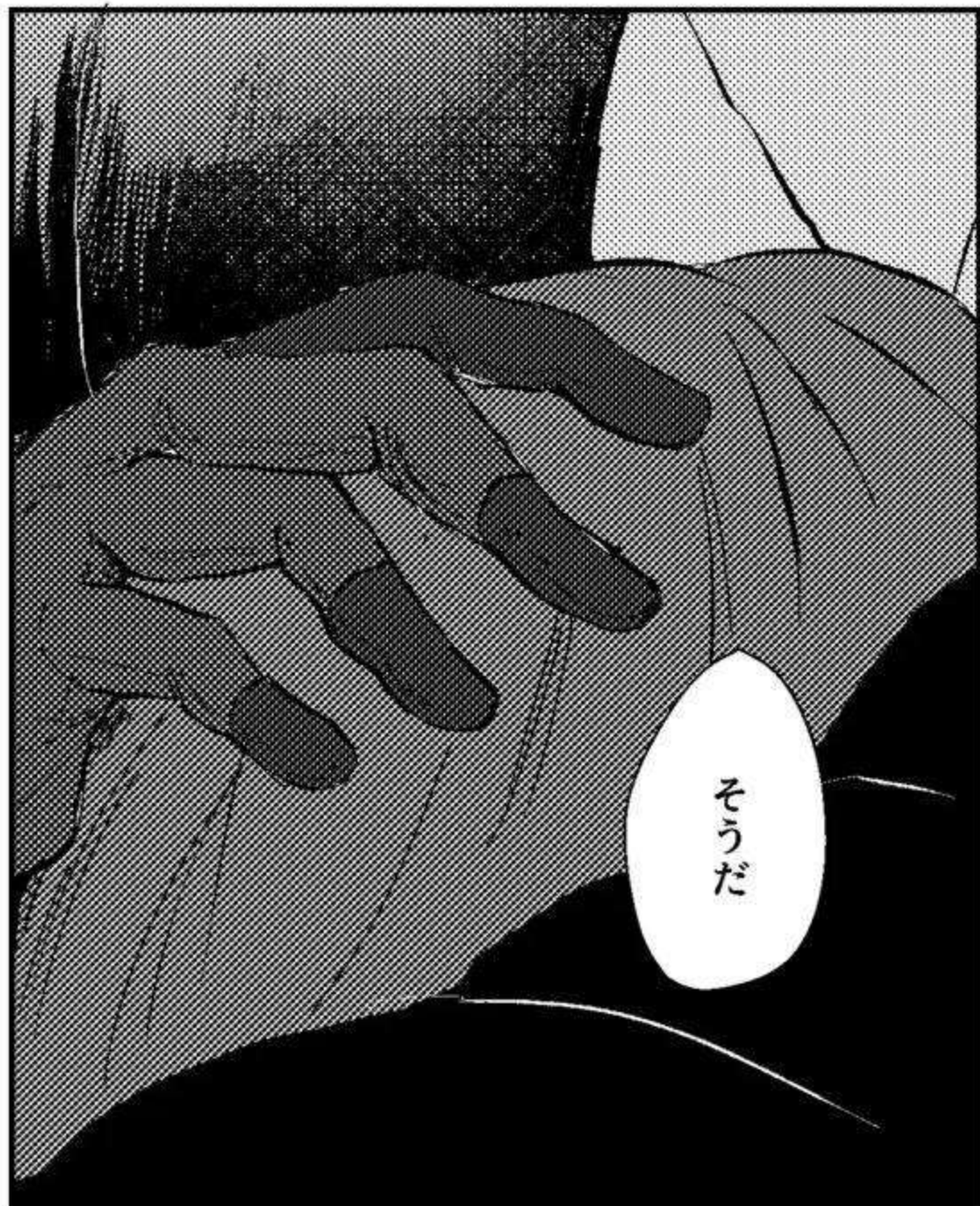


小さな王は

酷く震えながら  
とても力強く  
オレの腕の中で泣いた



ゆづり



そうだ



うううあ

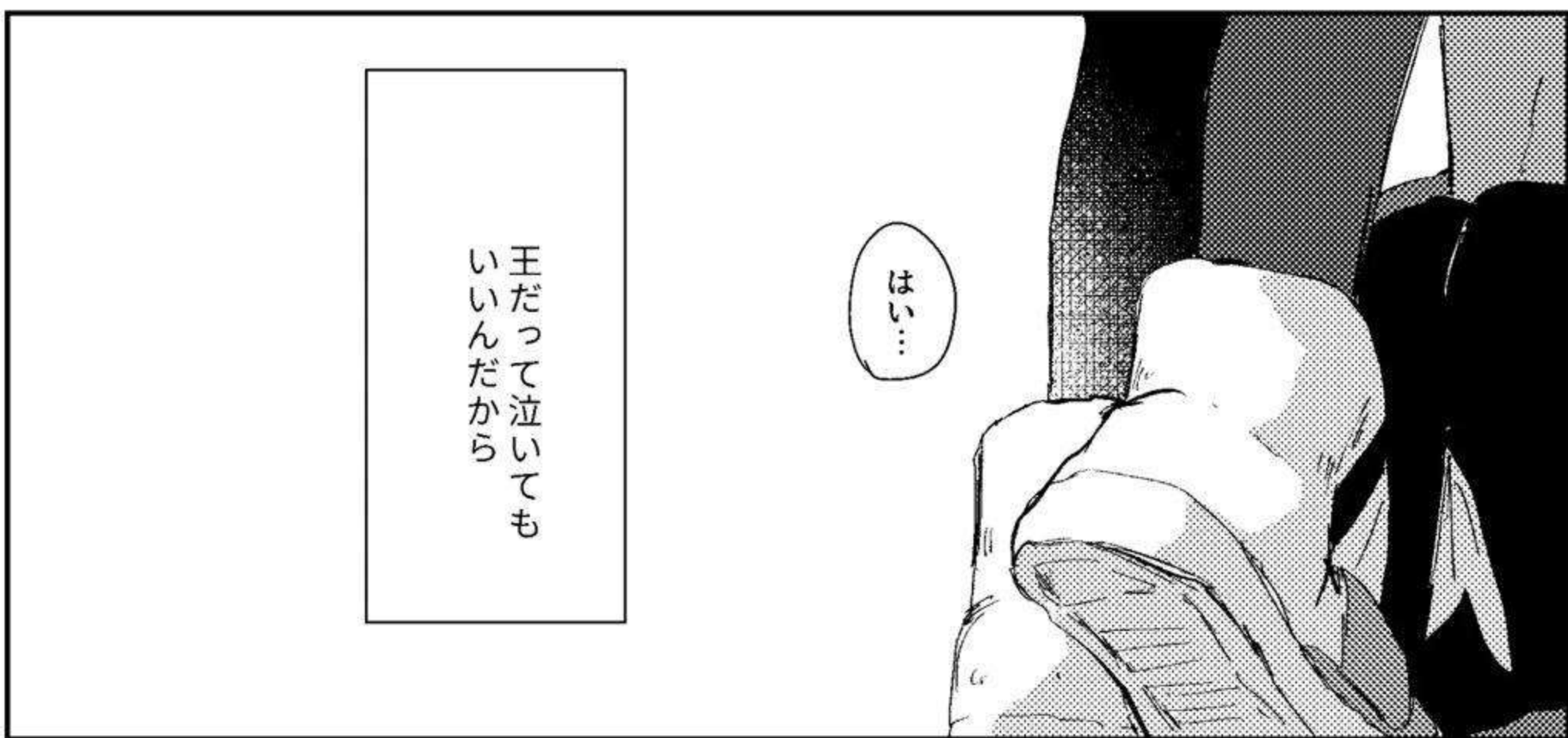
うっ...  
うう

ん

うう

今日はデリバリー頼もうぜ  
好きなものなんでも  
注文していいからな

そのあと  
えっちしようか



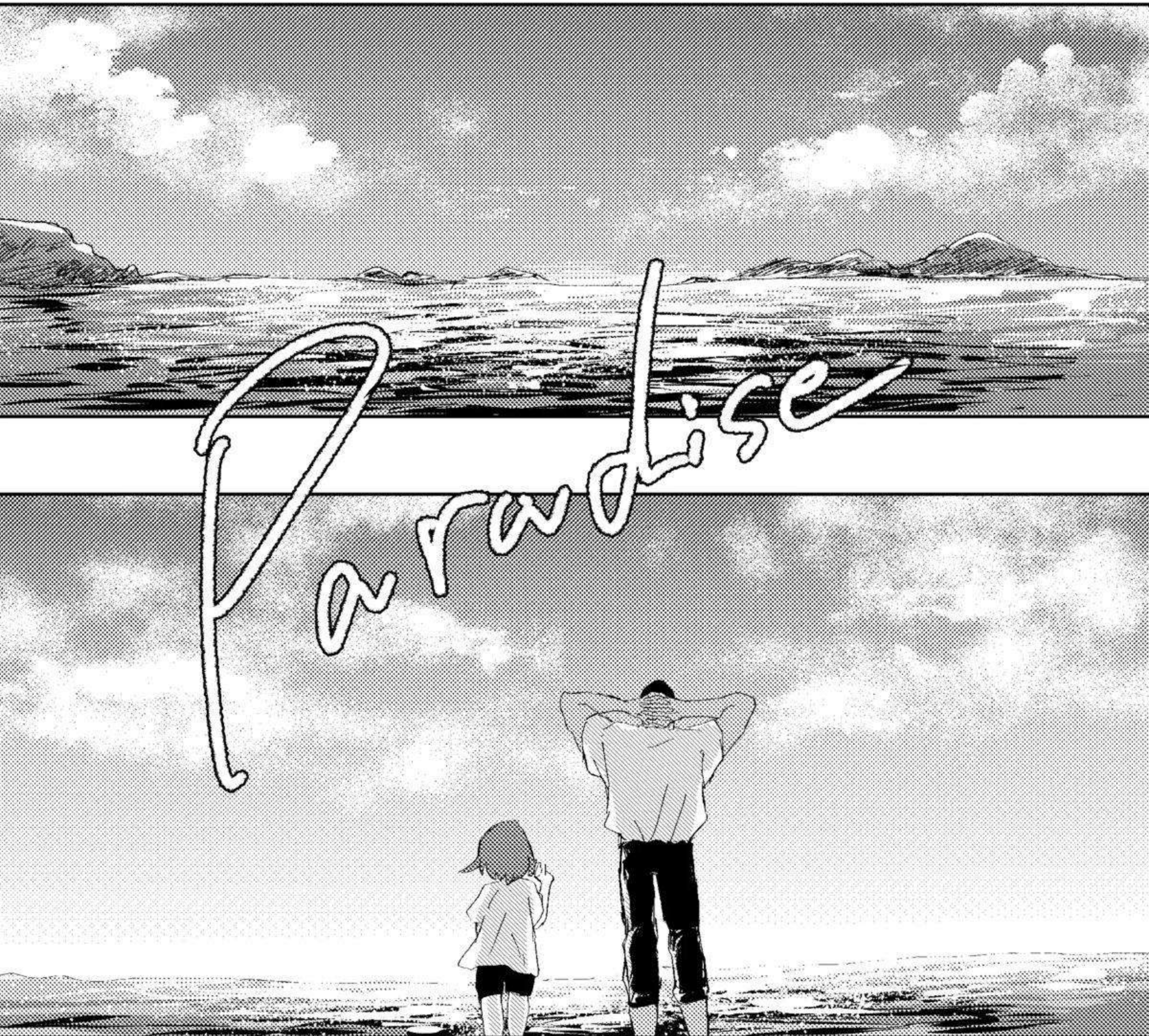
はい...

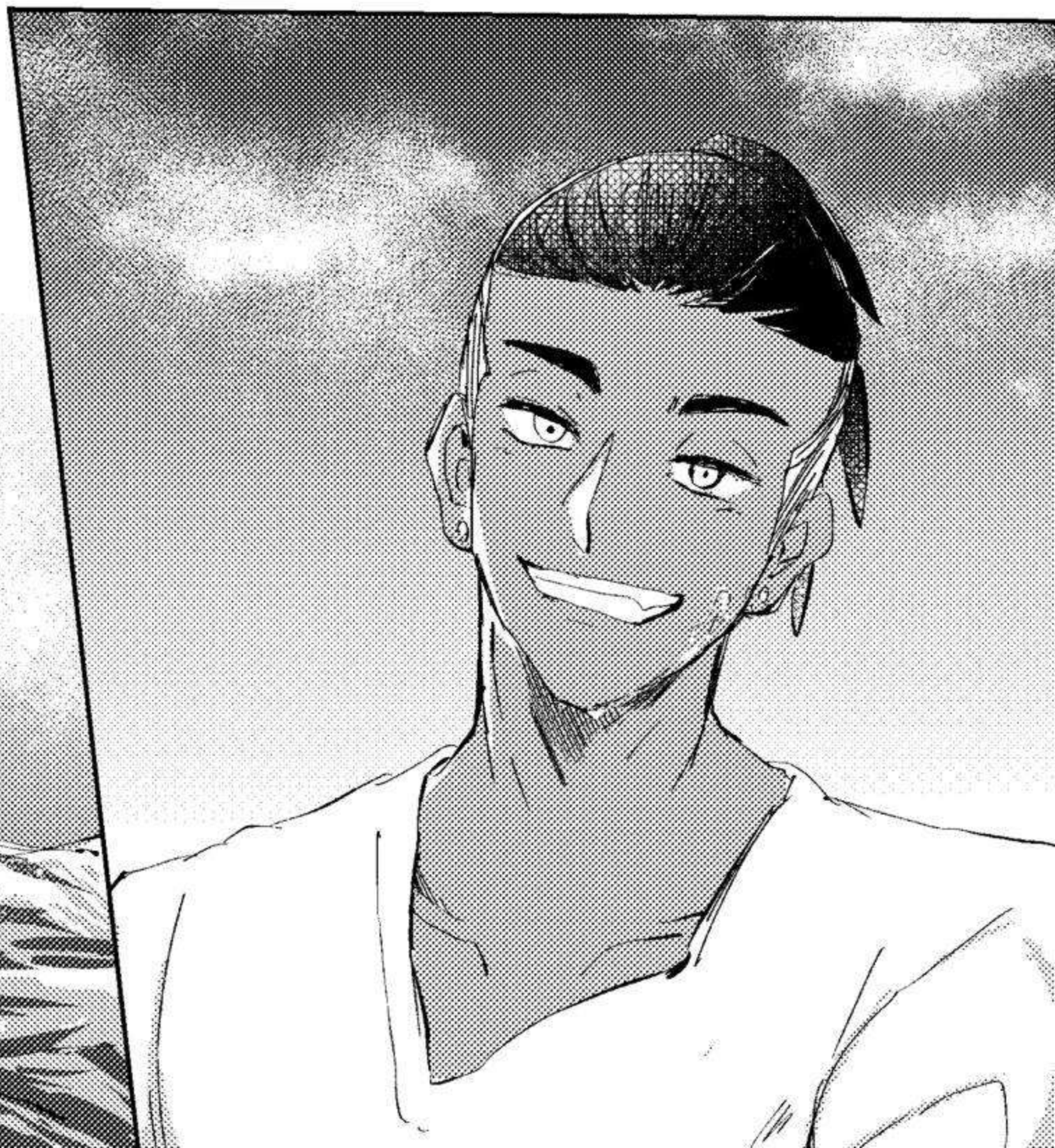
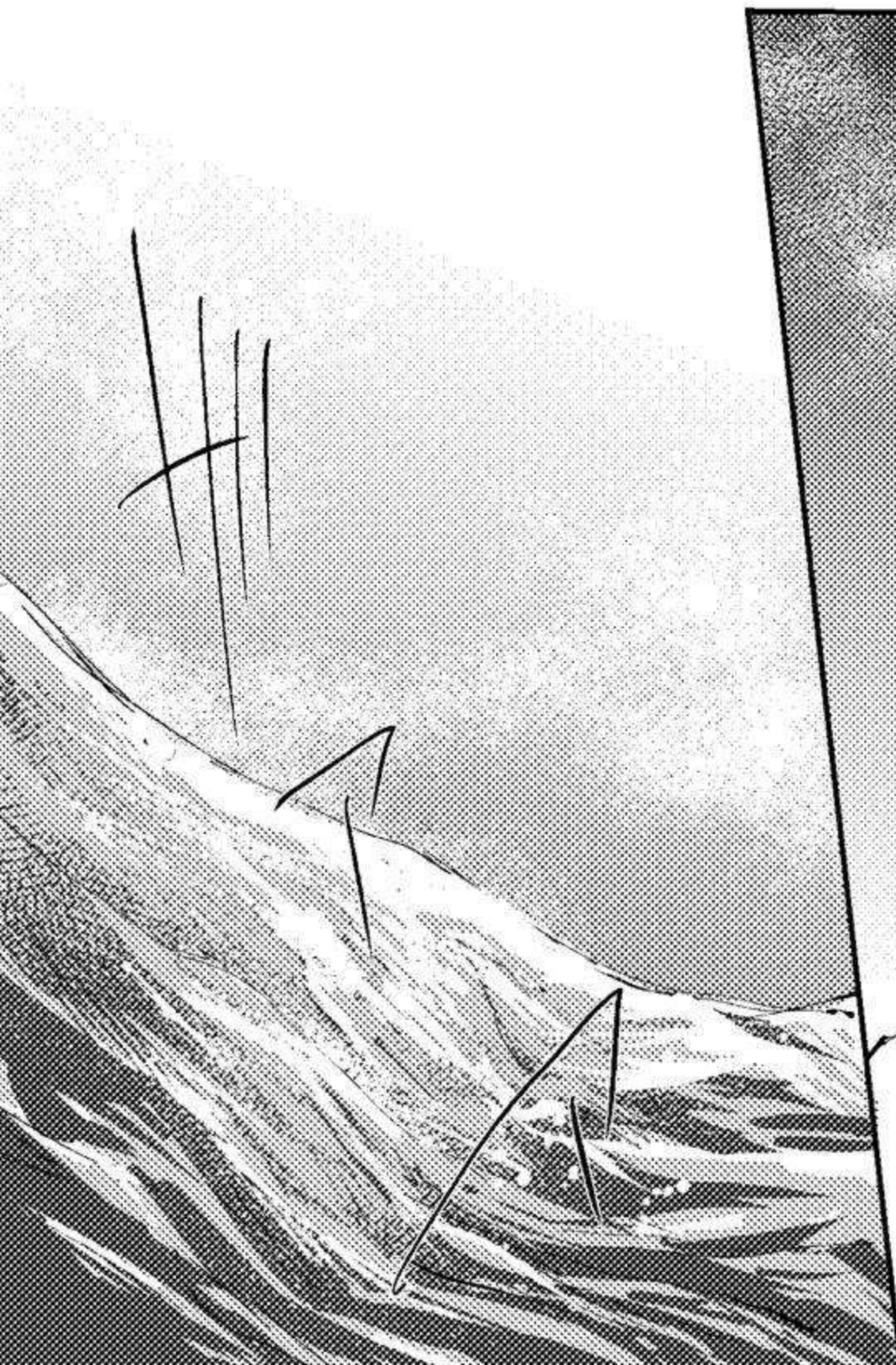
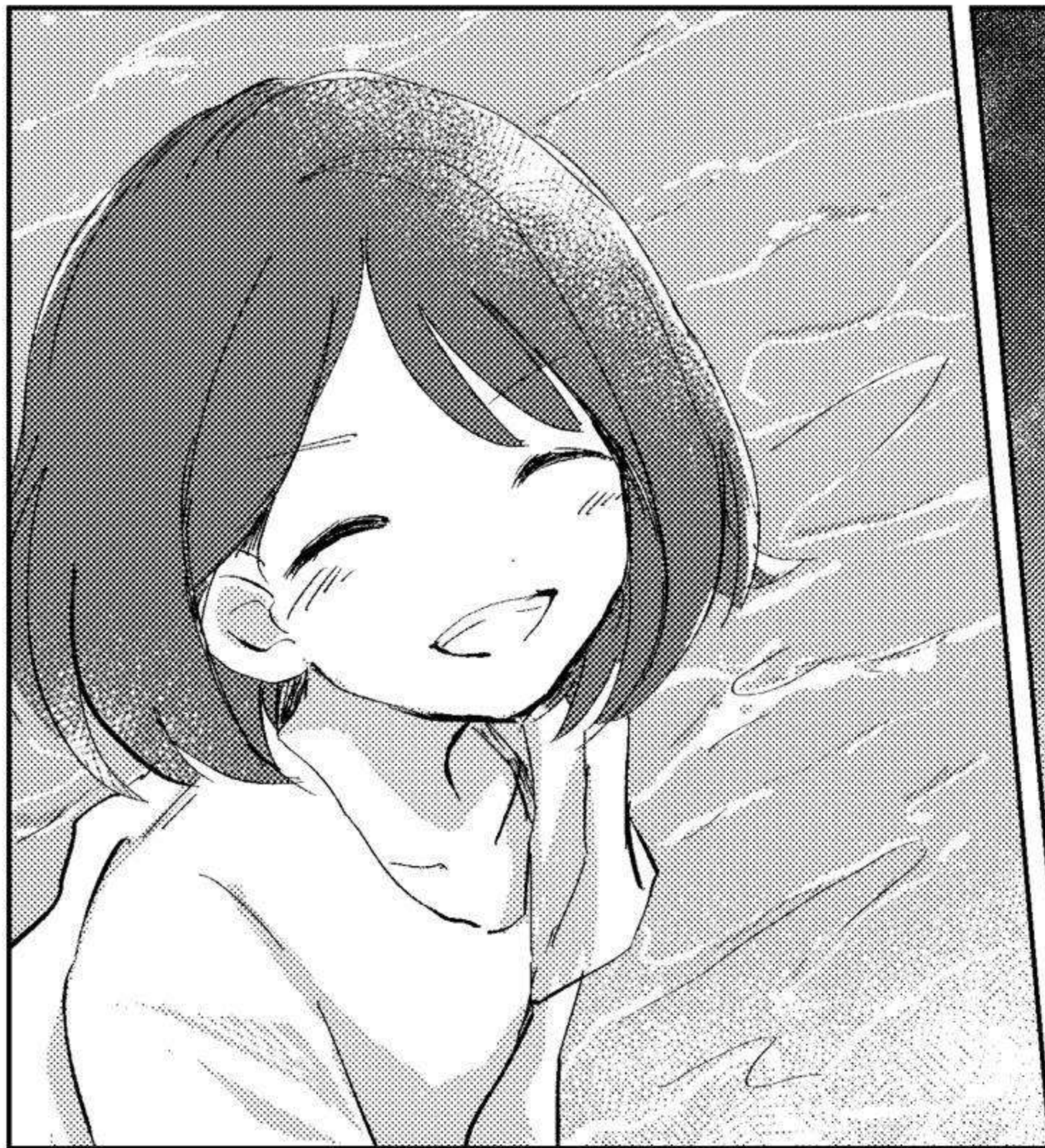
王だって泣いても  
いいんだから

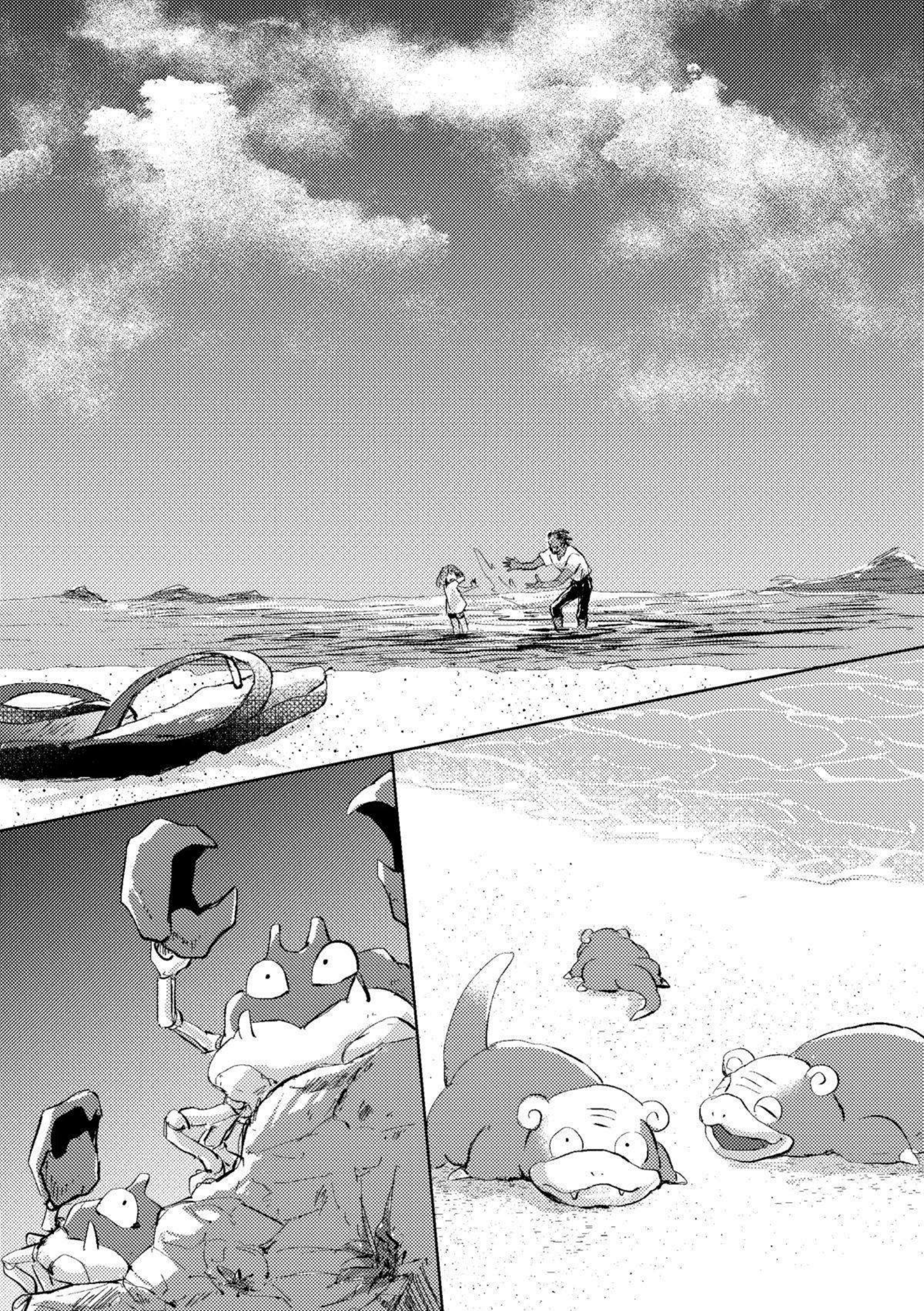
周りには弱い部分は決して見せない、諭されないようにしてても  
お互いの前だけでは泣きじゃくるユウリとキバナっていいなって





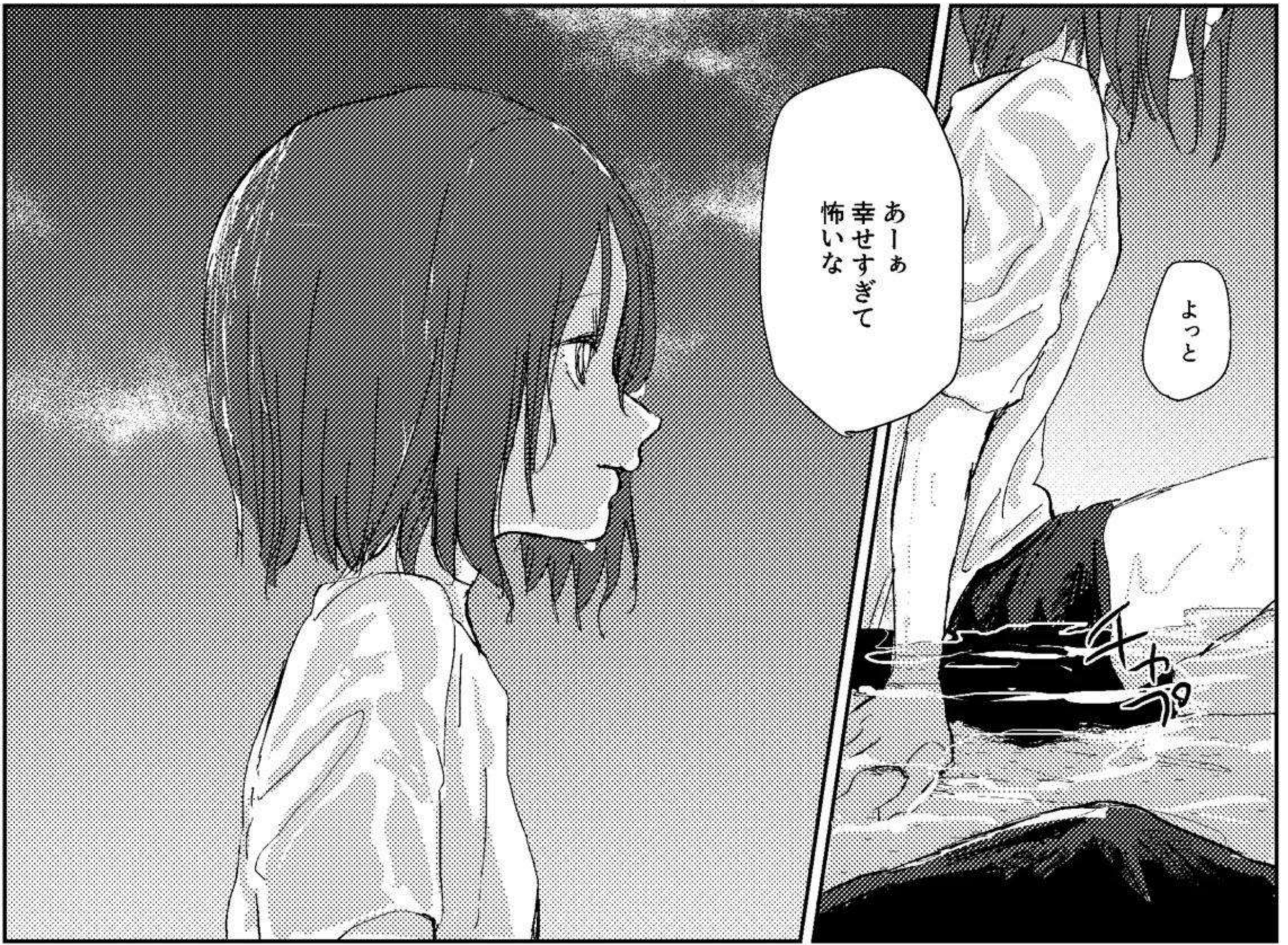






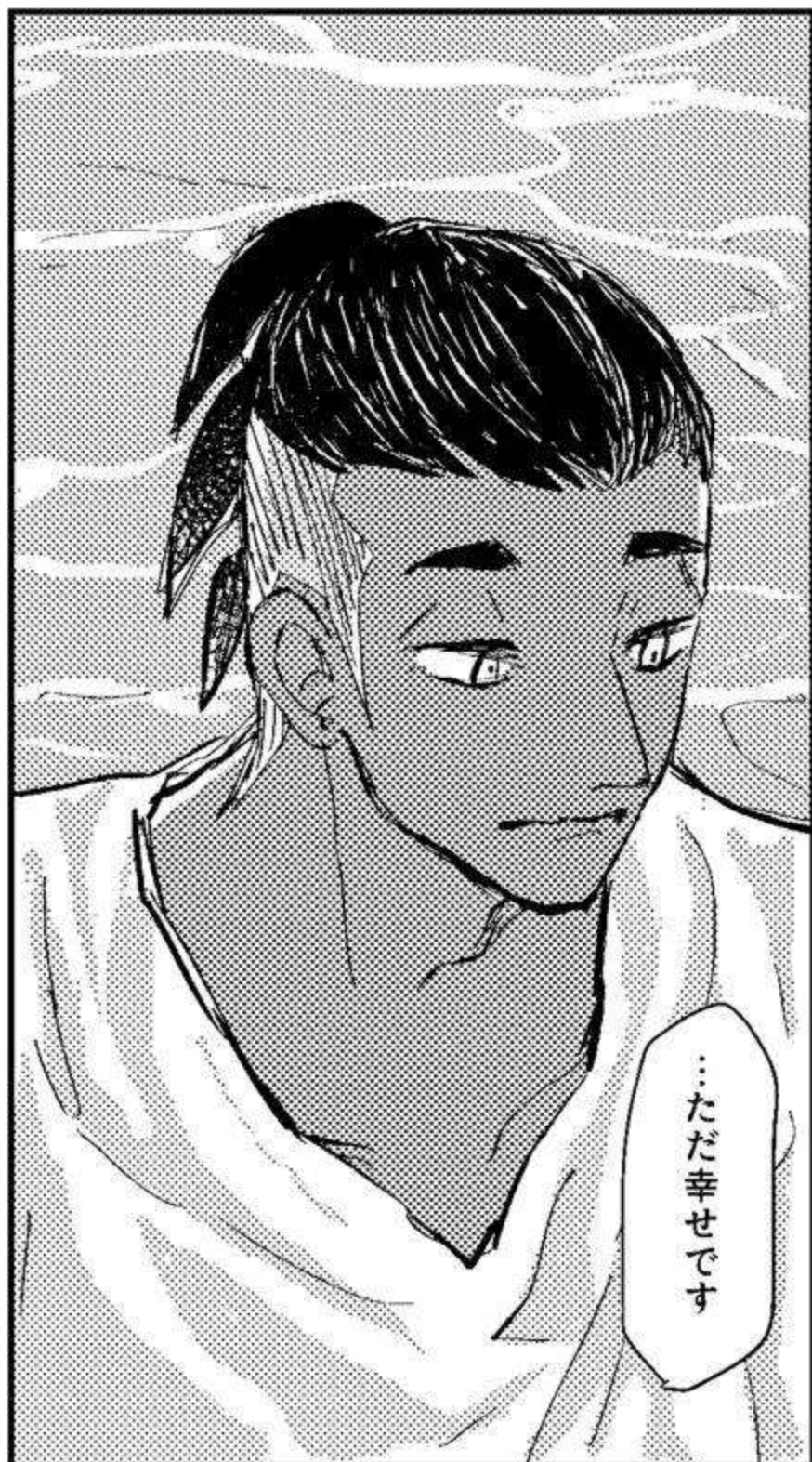
キバナさん  
容赦ないっ！

先に仕掛けてきたのは  
ユウリだろっ



あーあ  
幸せすぎて  
怖いな

よっと



…ただ幸せです

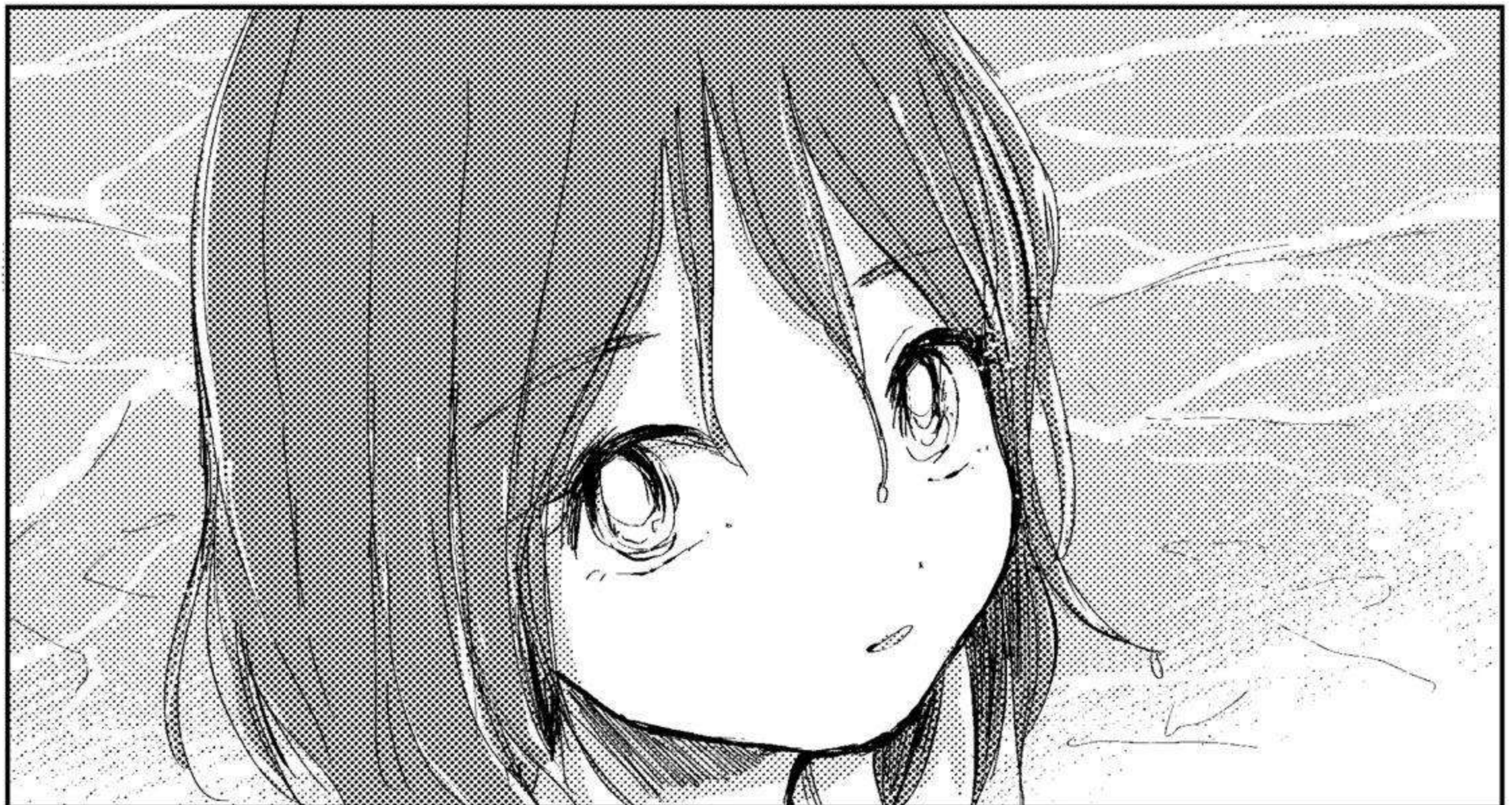
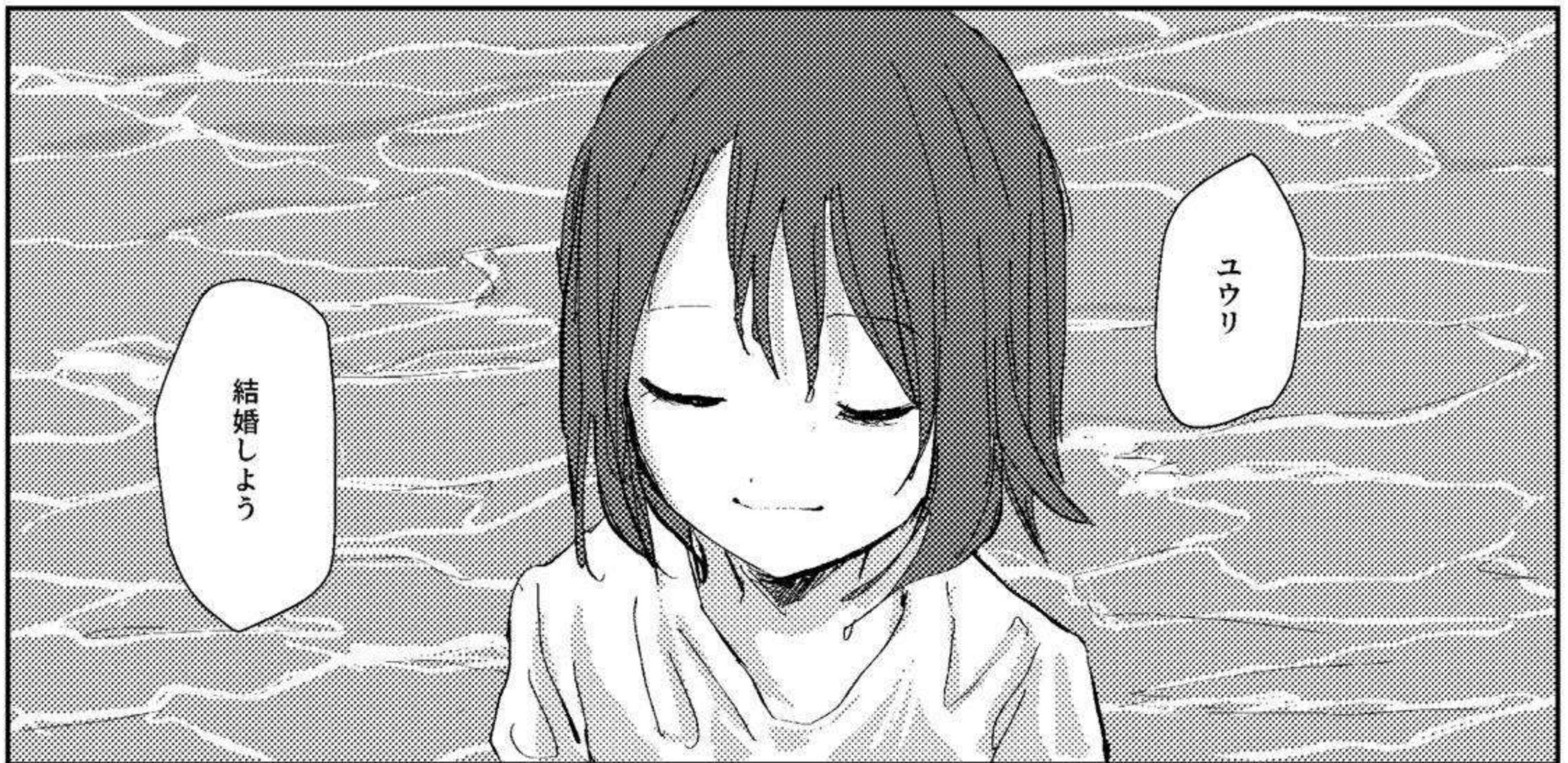


朝起きたら隣に  
キバナさんが居て  
一緒に朝ごはん食べて  
たわいもない話で  
笑い合ってた

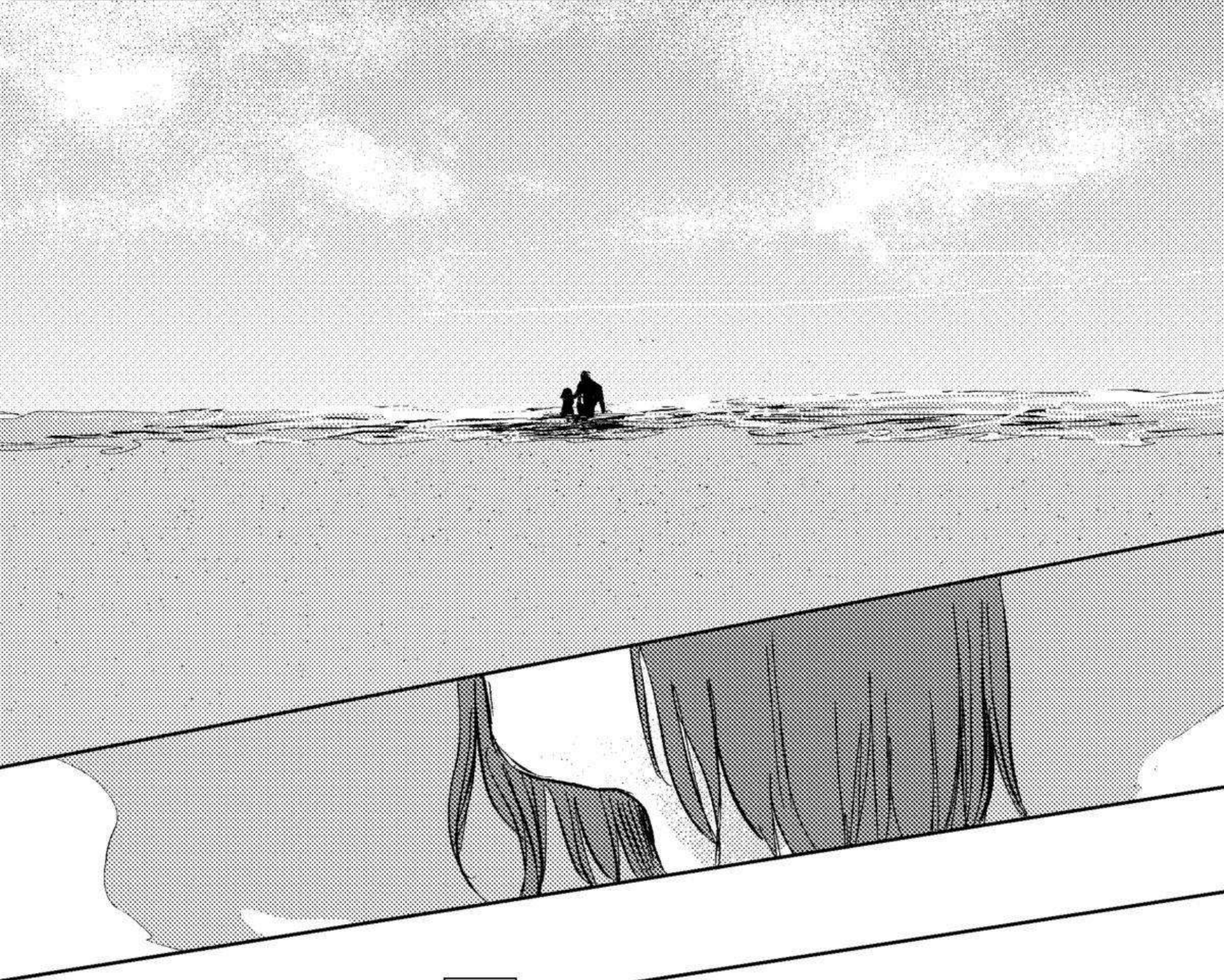
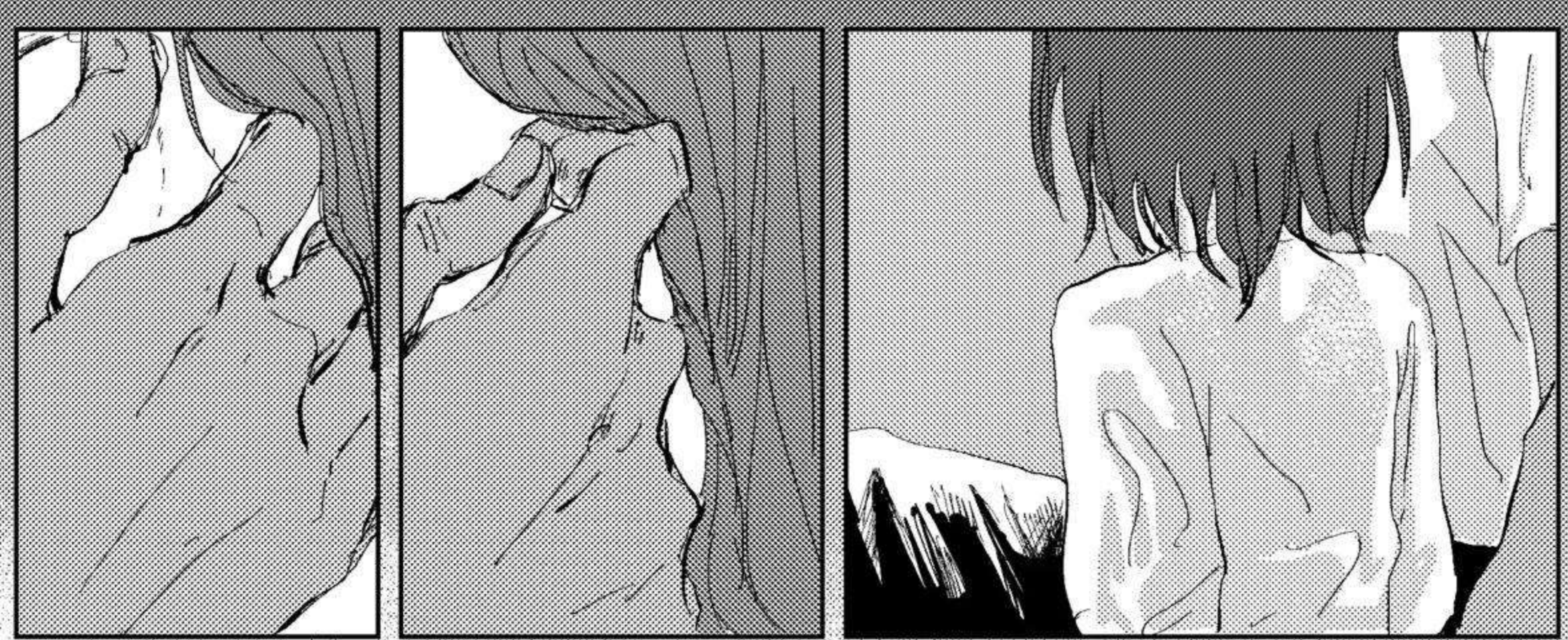


キャンプしたり  
バトルしたり  
えっちしたり

お互いの温かさを  
感じながら一緒に  
お布団で寝て  
そしてまた朝を迎えるんです





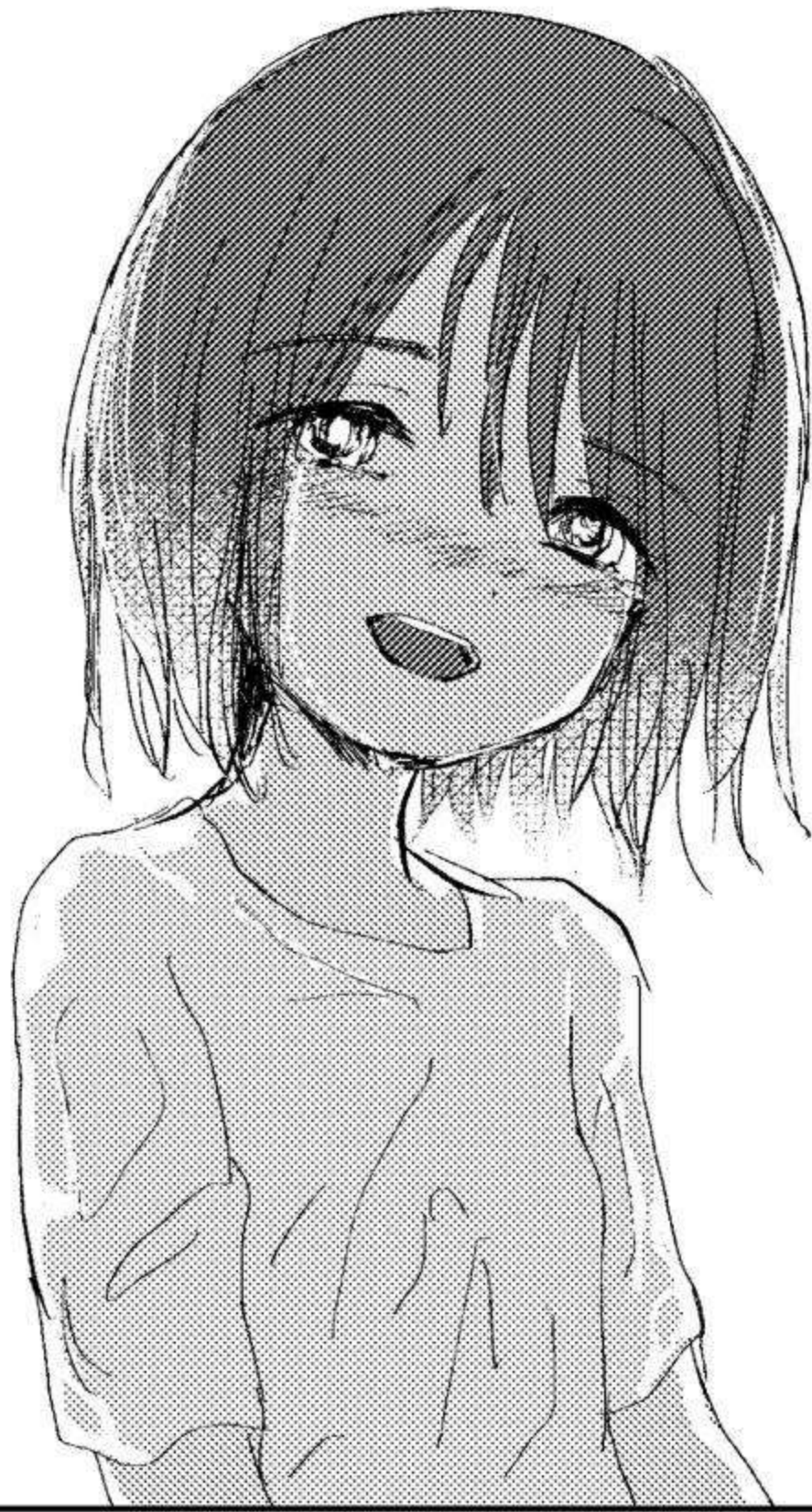


ああ





きっと楽園はここだ



はい



幸せですね



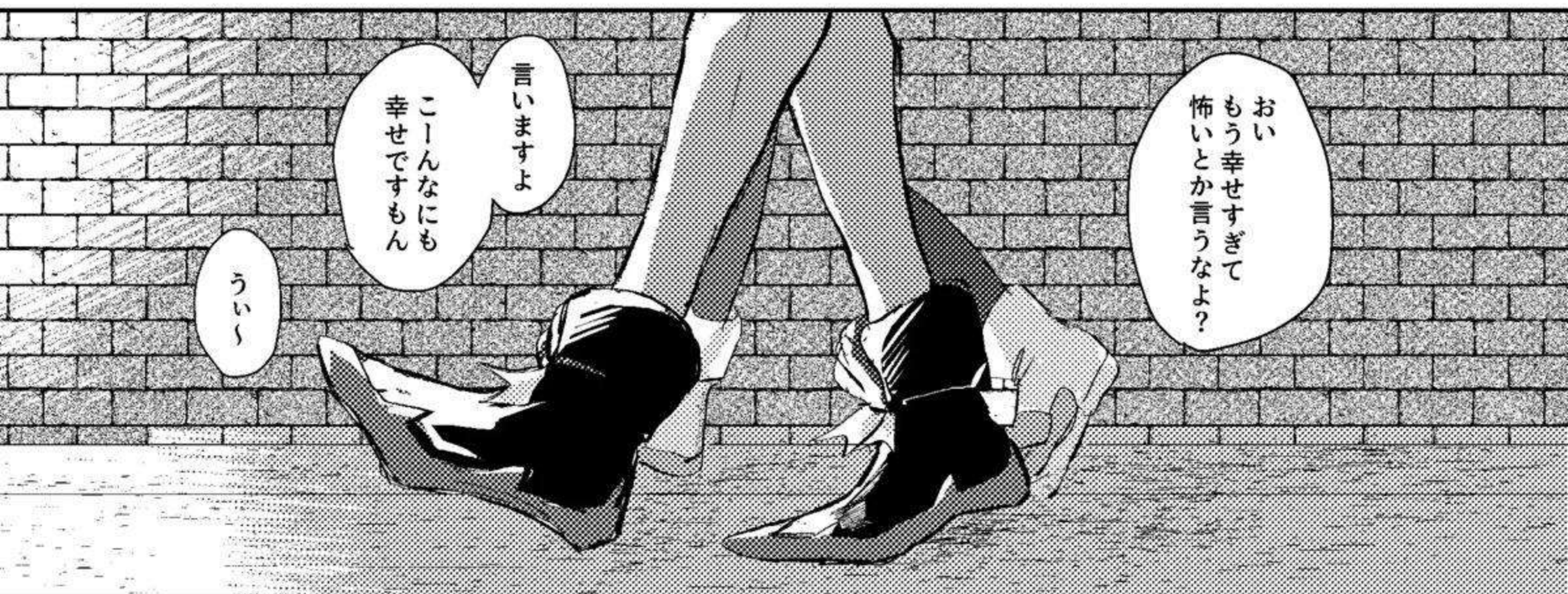
—なんてこともありましたね—



よせよ  
はずかしい

え、あたしは好きですよ  
改めて惚れ直しましたね  
指輪は事前にちゃんと  
準備して欲しかったけど

…それは  
ほんとごめん



おい  
もう幸せすぎて  
怖いとか言うなよ?

言いますよ

こーんなにも  
幸せですもん

うい—



おっ  
いいね〜!

コロッケ買って  
帰りませんか?  
カレーに乗せましょ!

ん  
いい匂い〜

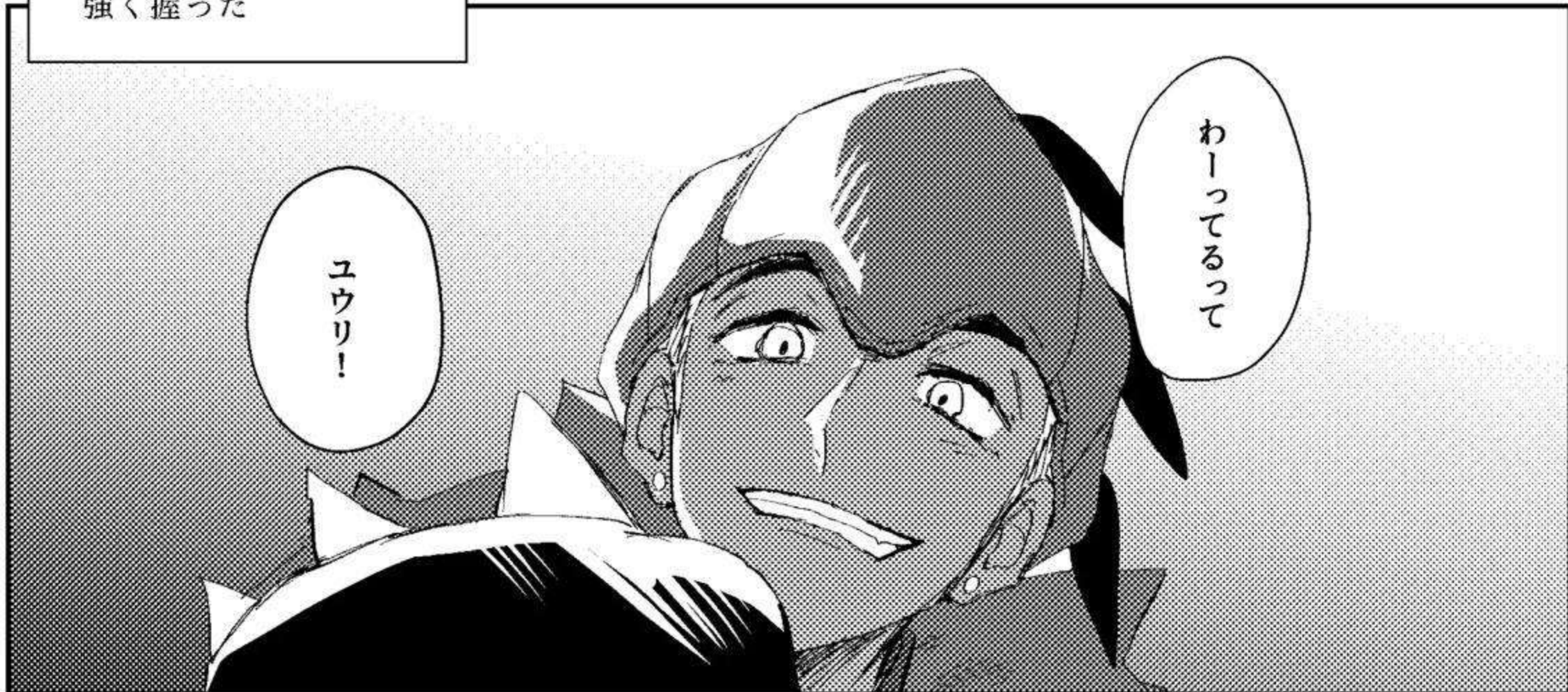
PM17:22  
今日の天気は晴れ



キバナさん!

ほら  
早く!

暮れゆく空を横目に  
大きくて大好きな手を  
強く握った



ユウリ!

わーっ  
っっっ

いつも見てくださり本当にありがとうございます。  
どのお話が印象的だったでしょうか。  
少しでもお楽しみいただければ幸いです。

やっぱりキバユウは美味しい。

A2

Dedicated to you

発行日 2022.12.11

感想など頂けましたら  
励みになります…!

発行者 白み  
発行サークル 白空(はく)  
印刷会社 おたクラブ  
Twitter @shiral\_  
連絡先 shirrale@gmail.com



この同人誌は公式とは一切関係ありません。

以下の行為は一切禁止しております。

- ・無断転載、複製、web上への掲載
- ・ネットオークションやフリマアプリへの出品
- ・転売行為

